

社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

法人の設立・運営の理念を全職員が理解し、利用者への適切な福祉サービスの提供及び法人の独自性を發揮した社会的使命の追求にあたることを基本方針とし、多機能総合福祉施設群としての一体的運営に留意し、キリストの教えに基づき事業を実施した。

2 重点実施事項

近年、福祉サービスを提供する事業所の増加、児童福祉施設の配置基準の見直し、他事業（病院、保育園等）との競合、加えて若者に顕著にみられる福祉職離れ等を背景として当法人を含めた福祉業界では人員不足が起こっている。

また、社会福祉法人に対する存在意義を求める声が大きくなり2017年の社会福祉法改正により、地域における公益的な取り組みを行う責務が示された。それ以降、従来から実施している地域貢献の取り組みや新たな取り組みの重要度が増してきている。

児童福祉施設の関係では新しい社会的養育ビジョンが示され、より高度な専門性や多様化を含めた施設のあり方が求められ、大きな転換期を迎えている。

法人独自の課題として、当法人では1980年前後に建設された建物が多く前耐震基準（1981年の建築基準法の改定前）で建築された建物もあり、老朽化が進んだ施設や設備も目立ってきている。

また、2019年度は2度の大型台風の被害を大きく受け、予定していた事業計画にも影響があり、防災体制の在り方への示唆が与えられた年となつた。

そのような中で、次のことを重点実施事項として取り組んだ。

（1）望みの門学園、望みの門デイサービスセンター及び本部機能の移転新築 (達成度60%)

築39年となった望みの門学園及び築45年の望みの門デイサービスセンターを中心として、本部機能及び高齢者在宅サービスを備える総合的な建物として望みの門新生舎横の法人所有地に建て替え計画を進めた。本建物には津波対策としての機能を付加し、地域貢献にも資することとした。

設計監理業者による基本設計と実施設計を経て、2月19日に一般競争入札を実施し、2月20日に松栄建設㈱と建築請負契約を締結した。

しかし、当初の計画から予定価格が大幅に増加し、資金計画を見直す必要があり、資金計画の修正案について理事会から承認を受け、独立行政法人福祉医療機構、君津信用組合からの借入の手続きを進めるとともに千葉県の補助金関係の手続きを進めた。

また、市街化調整区域の開発許可や高度な技術を要する基礎工事の影響で工程表から大幅な遅れが生じ、工程表を大幅に見直して実施することとなつた。

(2) 人材の採用、定着、育成の促進（達成度 90%）

職員配置による加算の算定は概ね例年通り行えたが、希望する人数までの加配はかなわなかった。法人全体を通した不足感は継続しており、職員の資質についても課題が残った。

有料の求人サイトを活用し、1名の採用実績（エントリー者 651名、施設説明会参加者 15名）を得た。同時にホームページ、SNSを活用した法人の広報活動を通して人材の獲得に繋げる試みを積極的に実施した。

法人の定める施設定数表と比較して直接処遇職員が楽生園、紫苑荘、富士見の里、地域包括センターを除き人員は概ね充足していたが慢性的な不足感は続いた。

職員の離職削減を進めた結果、2019年度は離職率 11.6% で 2018 年度の 16.8% から 5.2%（人数換算約 15 名）減少した。

また、法人として初めてとなる派遣職員を望みの門紫苑荘に導入した。

(3) 入所者数及び措置費請求関係の管理の強化（80.2%）

2018 年度に児童福祉施設において暫定定員という問題が起きた。また、介護保険の事業所や障害者施設では稼働率によって収入が大きく変化することから入所者数を適切に管理すると共に行政に提出する措置費等の請求書類を管理する体制を強化した。

具体的には、事業計画における入所者や利用者の月毎の計画について利用者数の動向や稼働率を施設長月報及び ISO 実績データ表において管理した。

結果として法人における全体の稼働は 80.2% となり、特に高齢者施設において良好な数値であった。

一方、望みの門木下記念学園においては入所計画通りの入所が促進できず 30 名定員のうち平均入所者 15.5 名という結果となり、2020 年度は暫定定数 18 名でスタートすることとなった。

3 新規実施事項

(1) 望みの門学園、望みの門デイサービスセンターの移転新築（達成度 60%）

重点実施事項参照

(2) 診療所の外部患者の受け入れ開始（達成度 83%）

望みの門木下記念学園内に法人の医務監を管理者として精神科、心療内科、児童精神科を標榜する「望みの門木下記念学園クリニック」を開設した。

7月1日には関東信越厚生局から保険医療機関として指定を受け、11月1日から外部患者の受け入れを開始した。

また、富津市長、地元選出の県会議員、近隣の医師等をお招きして 11 月 7 日に開設記念感謝会を開催した。

患者数も 11 月 … 1 名、12 月 … 12 名、1 月 … 17 名、2 月 … 17 名、3 月 … 24 名と順調に増加している。

(3) 外国人技能実習生の導入（達成度 0 %）

2018年度から事業計画に計画している外国人技能実習生だが、フィリピン政府の対応の遅れ、法人が契約する監理団体の力不足から2019年度においても入国することができなかった。

政府が更に介護分野への外国人労働者の参入に対する規制を緩和したことにより、新たに特定技能という入国ビザが設定されることになった。

法人でも前述の当初計画からの技能実習生の入国の遅れがあるため、この特定技能も視野に入れ新たに仲介業者と協議を開始し、フィリピンの送り出し機関、日本でのサポート機関とそれぞれ契約締結に至った。

実習生の居住環境の整備については、入国が遅れていることと予定していた住居が台風の被害を受けたため、進めることができなかった。

(4) 職員給与の一部見直し（達成度 100 %）

①給与表の一部改定

最低賃金の引き上げに伴い現給与表の一部に最低賃金に抵触する部分が発生したので給与規程「別表1 職能給表」を全体に1万円ベースアップして改定した。

②特殊業務手当の改定

①の職能給表の改定に伴い、特殊業務手当を1万円減額した。

③非常勤職員の時給改定

非常勤職員基本給算定基準を常勤職員の職能給表改定に伴い時間単価でほぼ同額となる60円引き上げた。

これらの対応により、賞与の増額分や退職共済において若干の待遇改善につながった。

(5) 会計監査人の設置に向けた内部体制の準備（達成度 80 %）

2019年度は、予備調査を円滑に進めるために内部規程の確認、整理を行い内部体制の準備を行なった。準備としては、経理規程の変更や2020年度に向け一部内部規程を作成した。今後も規程の見直しを行い、準備を進める。

4 継続実施事項

2018（平成30）年度以前からの継続実施事項として次の事項に取り組んだ。

(1) 木下記念学園の支援

望みの門木下記念学園は、2018年度暫定定員の通知を受けたが年度末に千葉県が厚生労働省に協議書を進達した結果、暫定定員の適用除外となった。2019年度は、2018年度の実績値から暫定定員16名の通知を受け、運営を継続した。

引き続き千葉県をはじめとして、厚生労働省にも暫定定員の適用除外の要望をし、厚生労働省から専門官と措置費担当2名の計3名の視察の受け入れ支援をした。併せて各児童相談所への依頼を中心とした入所促進の支援を行った。

千葉県と厚生労働省の協議の結果、当初の暫定定員16名から24名への変更が許可され、加算を含めると30名定員とほぼ同額の措置費の支弁を受けることができた。

(2) 人事管理

①職員研修

職員の意欲の喚起、のぞみ会理念の職員への浸透、職員の知識・技術の向上、職員の福祉意識の向上等を目指し内部職員研修を隨時見直し、研修時間及び内容の充実を図った。P C技能の研修を上級コースに加え初級コースも増設し実施した。

また、外部職能団体が主催する研修を効果的に活用し、職員の各ステージに合わせた研修内容に計画的に派遣、参加させた。

また、コンサルタントが講師となる研修を実施した。台風の影響により予定していた実践発表大会が中止となつたが、2020年度に向けた実践発表大会の実行委員会をコンサルタントを加えて組織した。

②人事考課制度

人事考課制度を活用し、優れた人材の確保と育成に繋がるように努めた。また、目標管理と面接に重点を置き各職員の労働意欲の向上を図った。

また、事業への統合を進めているISOを人事制度にも統合していく具体的検討を計画したが、2019年度は事業計画を目標とした際の進捗管理の手法を具体的検討、試行するにとどまった。

③キャリアパス制度と職階制度の効果的運用

2010年度に導入したキャリアパス制度と職階制度の運用を継続し、職員が身に付けるスキル、受けるべき研修、取得すべき資格を周知してその結果が評価につながり職員の意欲向上につながるよう努めた。

また、全国社会福祉協議会が開発した「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」の「上級管理者コース」に2名を派遣し、この一連の研修をキャリアパスに設定することを決めた。

④資格取得奨励

職員の資質向上を図るため資格取得を奨励し、これを支援し、資格要件となる研修の受講には、積極的に職員を派遣した。

また、社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士、管理栄養士、介護福祉士等の上級資格取得に挑戦するよう職員に周知を図った。

これらの支援として職務専念義務免除規程、資格取得取り扱い規則（取得に係る費用弁償の内規）を活用した。

(3) 経理関係

法人全体として主に、児童福祉事業と老人事業及び介護福祉事業の収入額が増加し、支出額が増加しなかつたことにより収支差額が大きく増加した。また、赤字事業の収支の改善に努め、少しではあるが収支を向上させた。2019年度も望みの門木下記念学園は暫定定員の特例が認められ、24名分の事務費を受給することができ、大きな減少とならずに済んだ。収支の改善は行われたが、一時的なものであり今後も収支の安定、増加させるための情報収集及び予算や収支の管理が必要不可欠となる。

①支払業務の効率化

支払業務の効率化を図るために支払い状況の確認を行つたが、経費削減のためP Cで検索し購入するという経費中心の業務が進んでしまつた。ただし、P Cの活用によ

り発注業務の効率化が進んだが業者の統一化、業務の効率化は検討するにとどまつた。支払方法の連絡のためにグループウェア活用頻度を上げ、支払業務の効率化は少しずつ進めることができた。

②財務会計システムの効率的運用

クラウド財務会計システムの高度な運用を目指し、グループウェアを活用し経理の修正方法等を連絡することによりスキル向上を図ることができた。法人全体の財務情報の収集及び分析能力は多少ではあるが向上した。更なるスキル向上に努める。

③会計処理の共通化及び意識の向上

月次の事務員会議を継続して行い、意識の共有化、会計処理の統一化及び共通問題の解決を図った。特に、共通問題については事務員より報告の多い事項を会議の議題とし、認識に努めた。基礎知識の向上を要する事務員もいることから2020年度も各事務員の会計知識を向上させるための説明を行っていく。

④各拠点の情報の集約化

法改正に対応できるよう、業種毎に変更があった事業所は報告するように会議等で連絡、徹底した。2019年度は特に児童関係の変更が多かったが報告を受けることにより情報共有ができた。

⑤新任職員の教育

経理にかかわる規程の理解度を向上させるため、事務員会議での教育、外部研修への参加により教育を進めた。今後も研修等に参加させ事務担当者の教育に努める。

⑥決算書類作成及び決算事項チェックの強化

決算マニュアルにより書類作成能力の向上、チェックの強化を図った。作成及びチェック能力の向上は認められたが決算書類の内容把握があまり向上しなかった。今後は決算業務を含め、職員教育に努める。

(4) 諸規程の見直し

現在施行されている諸規程の実態及び法令等に合致しているかを確認し、整理した。

また、職員が働きやすい職場を目指して新たな制度や法定を上回る制度を検討して規程を隨時見直した。

結果として、「定款」、「給与規程」、「経理規程」、「防災規程」、「非常勤職員就業規則」、「出張旅費規程」の改定を行った。

(5) 福祉学校（介護職員初任者研修）

2019年度に1回の開校を計画し、受講者を募集したが外部からの応募者がなく止む無く中止とした。2020年度においては、早期からの研修計画と募集を行うことで受講生の獲得に繋げることとした。

(6) パソコン活用の推進

ホームページを活用し外部周知を進めたが大きな成果が出ていない。パソコンスキルの向上についてはパソコン講習を行い、進めたが大きな成果は出なかった。今後も検討課題としている。インターネット環境の整備及びパソコン入れ替えにより環境整備を進めた。データの管理についてはパソコンの台数が増加し、管理状況が煩雑になっ

てしまった。今後は専門業者を視野に入れ検討していく。あわせて職員情報管理ソフトについても検討していく。グループウェアの閲覧率の向上については会議等で推進したものの閲覧率70%を目指したが、41.8%にとどまり2018年度とほぼ同水準であった。2020年度も活用強化に努める。

(7) ISO認証資格

法人全体での安定的運用に努めた。認証を受けている施設の継続した認証取得を進めた。また、事業との統合による実効性の向上と業務負担の軽減に取り組んだ。

2019年度は、被認証施設の継続審査を経て認証の継続を行った。審査結果では「マネジメント」「内部監査」「是正処置」「継続的改善」「運用管理」「資源」の6項目全てが5段階中レベル4の「成熟している」という評価を受け、法人内の管理システムの運用が徐々に向上してきていることがうかがえる。

また、事業との統合が徐々に進捗していることから次のステップに移行している段階だといえる。但し、認証取得施設の対象を変更することが提案されていたが、結論には至らず継続課題としている。

(8) 地域交流

バザーや運動会等の行事や地域の清掃活動等の地域行事への参加を通じて地域との交流を図り、地域との信頼関係及び社会的立場を確立し地域社会に貢献できる法人を目指した。併せて地元企業との協働や地元ボランティアの積極的受入れを推進した。

また、認知症カフェ機能を持つ「門カフェ」を立ち上げ、新たな地域交流の場所として実施することができた。2019年度は131名の実績（下表参照）で大佐和憩いの家で実施する介護予防の出前事業についても月1回の実施の代わりに送迎を行い、門カフェへの参加を促し、新生舎家族会の交流の場としても門カフェを活用した。

認知症カフェの実績、開催月と利用者数

月 利用	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	5	11	21	18	12		14	11	13	10	16		131

8月はイベントとして手作りうちわ作成教室を実施した。

9月は台風15号の影響、3月は新型コロナウイルスの影響で中止となった。

5 理事会及び評議員会の開催状況

(1) 理事会

①第188回理事会

開催日 2019（令和元）年5月20日（月）

場 所 望みの門紫苑荘 多目的ルーム（富津市富津617番地14）

出 席 理事8名 監事2名

報 告 法人・施設の現況

監事監査報告

議 事 第 1 号議案	2 0 1 8 (平成 3 0) 年度補正予算の件
第 2 号議案	2 0 1 8 (平成 3 0) 年度事業報告の件
第 3 号議案	2 0 1 8 (平成 3 0) 年度決算の件
第 4 号議案	定款変更の件
第 5 号議案	任期満了に伴う評議員会への理事及び監事候補者推薦の件
第 6 号議案	評議員会日程及び議案の件
第 7 号議案	富津市金谷所在の旧旅館購入に伴う補正予算の件
第 8 号議案	望みの門楽生園エレベーター更新の件
第 9 号議案	望みの門学園及びデイサービス等建て替え工事の件

②第 1 8 9 回理事会

開催日 2 0 1 9 (令和元) 年 6 月 1 8 日 (火)
 場 所 ホテルプラザ菜の花 4 階「楓」(千葉市中央区長洲 1 - 8 - 1)
 出 席 理事 8 名 監事 2 名
 議 事 第 1 号議案 理事長、副理事長及び常務理事互選の件

③第 1 9 0 回理事会

開催日 2 0 1 9 (令和元) 年 1 2 月 2 5 日 (水)
 場 所 望みの門紫苑荘 多目的ルーム(富津市富津 6 1 7 番地 1 4)
 出 席 理事 9 名 監事 1 名
 議 事 第 1 号議案 諸規程改定の件
 第 2 号議案 望みの門学園及びデイサービス等建て替え工事に伴う設計監理料の件
 第 3 号議案 望みの門学園及びデイサービス等建て替え工事に伴う資金計画及び借入金の件
 第 4 号議案 望みの門学園及びデイサービス等建て替え工事入札の件

④第 1 9 1 回理事会

開催日 2 0 2 0 (令和 2) 年 2 月 4 日 (火)
 場 所 望みの門紫苑荘 多目的ルーム(富津市富津 6 1 7 番地 1 4)
 出 席 理事 9 名 監事 1 名
 議 事 第 1 号議案 望みの門学園及びデイサービス等建て替え工事に伴う一般競争入札参加業者選定の件
 第 2 号議案 望みの門学園及びデイサービス等建て替え工事に伴う落札業者との契約締結の件
 第 3 号議案 望みの門学園及びデイサービス等建て替え工事に伴う資金計画の一部変更の件

⑤第 1 9 2 回理事会

開催日 2 0 2 0 (令和 2) 年 3 月 2 5 日 (水)
 場 所 望みの門紫苑荘 多目的ルーム(富津市富津 6 1 7 番地 1 4)

出席 理事10名 監事2名
報告 千葉県指導監査報告
法人・施設の現況
望みの門学園及びデイサービス等建て替え工事入札等の報告
議事 第1号議案 2019（令和元）年度補正予算の件
第2号議案 2020（令和2）年度事業計画の件
第3号議案 2020（令和2）年度予算の件
第4号議案 諸規程改定の件
第5号議案 施設長等人事の件
第6号議案 望みの門学園及びデイサービス等建て替え工事
資金計画の一部変更の件

(2) 理事会への各理事、監事の出席状況（全5回中）

①5回出席 木下宣世 木下勝世 井本義孝 西尾建 坂井栄一 小林義則
簾昭博 田尻隆
②4回出席 南 純（監事） 足達裕昭（監事）
③3回出席 福原好子
④1回出席 長島成幸

(3) 評議員会

①第45回

開催日 2019（令和元）年6月18日（火）
場所 ホテルプラザ菜の花 4階「楓」（千葉市中央区長洲1-8-1）
出席 評議員8名
報告 監事監査報告
議事 第1号議案 2018（平成30）年度事業報告の件
第2号議案 2018（平成30）年度決算の件
第3号議案 定款変更の件
第4号議案 任期満了に伴う理事及び監事選任の件

6 監査の実施状況

(1) 監事監査

2018（平成30）年度の利用者サービス、事務処理および財務の監査

実施日 2019（令和元）年5月8日、13日

対象 法人本部及びのぞみ会全施設、全事業

(2) 千葉県君津健康福祉センター監査

2018（平成30）年度の業務に対する指導監査

実施日 2020（令和2）年1月23日、24日

対象 法人、望みの門学園、望みの門楽生園、望みの門紫苑荘（短期入所含む）、
望みの門ハイム、グレースホーム、望みの門デイサービスセンター、

望みの門ホームヘルプサービス
望みの門かずさの里、望みの門方舟乳児園、望みの門木下記念学園、
望みの門富士見の里（短期入所含む）、

（3）君津健康福祉センター（保健所）巡回指導
給食施設の衛生管理及び栄養管理に関する状況把握のための巡回指導
2019（令和元）年度はなし。（2年に1回に変更となる）

7 職員の採用退職

（1）職員総数301名（うち非常勤職員90名）※2020.3.31日現在

（2）2019（令和元）年度中の職員の採用退職

（※2019.3.31退職者含み、2020.3.31退職者含まず）

採用	退職	再雇用
33名（15名） () 内非常勤再掲	35名（8名）	6名

8 事務処理の状況

（1）機関誌発行

法人の情報発信を機関紙「望みの門」として後援団体・個人、関係団体・個人等に年3回発行した。第80号（4／1）、第81号（8／1）、第82号（12／1）

（2）軽井沢の家利用状況

月利用	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ日数	4	6	0	10	8	0	8	0	0	0	0	0	36
延べ人数	13	18	0	36	26	0	46	0	0	0	0	0	139

(3) 年間行事等実施状況

実施月	内 容
4月	1日 機関誌発行・HP 更新、辞令交付式 10日～11日 新任職員研修（望みの門紫苑荘・ホテル千成）29名 16日～17日 ISO 審査
5月	8日 監事監査（財務） 11日 環境整備側溝清掃 13日 監事監査（運営） 20日 第188回理事会（望みの門紫苑荘） 25日 創立記念式典
6月	1日 望みの門バザー、ピーターパンの会総会（ホテル千成） 10日 ISOマネジメントレビュー 18日 第45回評議員会・第189回理事会（ホテルプラザ菜の花）
7月	6日 京葉後援会総会 10日 中堅職員研修A 25名 18日 中堅職員研修B 22名
8月	1日 機関誌発行・HP 更新 7日 8日 職員健康診断 20日 ISO監査員養成講座
9月	5日 富津地区防災訓練
10月	17日～18日 ISO審査 29日 望みの門京葉後援会研修（望みの門木下記念学園）
11月	2日 望みの門かずさの里感謝祭 7日 木下記念学園クリニック開設感謝小宴 18日 インフルエンザ予防接種 18日～24日 収穫感謝祭展示期間 25日 インフルエンザ予防接種
12月	1日 機関誌発行・HP 更新 2日 研修委員会 5日～6日 チャプレン研修（紀伊乃国屋）11名 14日 合同クリスマス会 25日 第190回理事会（望みの門紫苑荘）
1月	1日 元旦礼拝 6日 職員内部研修（望みの門紫苑荘）41名 23日～24日 千葉県指導監査（23日富津地区・24日かずさ地区）
2月	4日 第191回理事会（望みの門紫苑荘） 12日 研修委員会 13日 運転適性検査・安全運転講習会（望みの門紫苑荘）25名 19日 学園建て替え工事業者入札 27日～28日 施設長副施設長研修（季眺）22名

3月	17日 実践発表大会実行委員会 25日 第192回理事会（望みの門紫苑荘）
----	--

経営会議：幹部会議以外の毎月第一月曜日 幹部会議：4, 6, 8, 10, 12, 1, 3月の第一月曜日
 施設長・副施設長合同会議、部長会議：毎月第三月曜日
 常務会：毎月開催 門カフェ：毎月第三水曜日

9 施設整備

(1) 本部施設整備

①額縁 181千円

東美

②職員宿舎302号室給湯器取替工事 224千円

伊東建設興業株式会社

③デスクトップパソコン 109千円

D E L L 株式会社

(2) 本部・各拠点区分100万円以上の支出（工事、物品購入 等）

①法人本部拠点区分

a. 田んぼ土地（基本財産）購入 430千円

林 裕司

b. 萬年屋土地（その他の固定資産）購入 2,003千円

株式会社萬年屋

c. 萬年屋建物（その他の固定資産）購入 6,997千円

株式会社萬年屋

d. 日産セレナ購入 1,080千円

関東自動車工業株式会社

②望みの門学園拠点区分

a. 望みの門学園・デイサービス新築工事設計費 12,096千円

株式会社UCA・都市・建築設計事務所

b. 望みの門学園・デイサービス新築工事土地ボーリング調査 1,500千円

株式会社国際技術コンサルタンツ

c. 望みの門学園・デイサービス新築工事 110,762千円

松栄建設株式会社

③望みの門楽生園拠点区分

高圧ケーブル交換工事 1,068千円

大佐和電設株式会社

④望みの門デイサービスセンター拠点区分

望みの門学園・デイサービス新築工事 109,238千円

松栄建設株式会社

10 資金概要

事業活動収入は16,040千円、事業活動支出は57,019千円で、2018年度と比較すると収入は減少し、支出は増加した。当期資金収支差額は-30,707千円とマイナスであった。2018年度と同等の繰入額を想定していたが、2019年度は、児童施設及び老人介護施設の収支が大幅に良好であったため、運転資金及び増加した貸付金の為に本部繰入金の増額を行った。このことにより本部の建設積立金（有価証券）の売却50,000千円を資金充当せずに済んだ。また、収支の増減理由（特記事項）は下記のとおりである。収支状況が厳しい拠点に対しての貸付や繰入、固定資産の取得のために支出をしている。今回、台風被害修繕が行われなかつたため、台風被害保険金を預金とは別に管理し、収支に影響が出ないように処理を行つた。

(1) 事業活動収入

- ①寄附金 7,151千円（2018年度7,637千円、ほぼ同額）
- ②雑収入 8,484千円（2018年度9,230千円、主に台風被害保険料）

(2) その他の活動による収入

- ①台風被害保険料 16,914千円（台風被害の修繕が行われなかつたため事業活動収支に含めず）
- ②繰入金収入 84,000千円（2018年度61,000千円）

(3) 事業活動支出

- ①人件費 40,515千円（2018年度39,673千円）
- ②事業費 2,624千円（2018年度 2,400千円）
- ③事務費 13,415千円（2018年度13,295千円）

(4) 施設整備等支出

- ①田んぼ土地 430千円
- ②金谷土地（萬年屋） 2,003千円
- ③金谷建物（萬年屋） 6,997千円
- ④公用車（日産セレナ） 1,080千円

(5) その他の活動支出

- ①積立資産支出 16,914千円（台風保険金を積立）

②施設貸付金

- 望みの門ハイムへ貸付 6,500千円
- 訪問看護ステーションへ貸付 3,000千円（2018年度 5,000千円）
- ピーターパンの家へ貸付 17,258千円（2018年度15,266千円）
- 望みの門木下記念学園へ貸付 30,000千円

③借入金返済

- 望みの門紫苑荘へ返済 500千円

④施設繰入

- 望みの門学園へ繰入 17,126千円（工事関係費用として）

1.1 法人全体の各施設の苦情受付件数、不適合サービス、解決済み件数及び未解決件数

苦情受付施設	苦情件数	不適合 サービス	解決済み 件数	未解決 件数
給食サービス室	—	1	1	0
望みの門デイサービスセンター	—	1	1	0
望みの門ホームヘルプサービス	—	1	1	0
望みの門学園	—	1	1	0
望みの門新生舎	1	4	5	0
望みの門ピーターパンの家	—	1	1	0
合 計	1	9	10	0

※軽微なものを除く

住宅型有料老人ホーム 望みの門ハイム

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

社会福祉法人が経営する公益事業である住宅型有料老人ホームとして、キリストの教えに基づき、利用者の意志と人格と立場を尊重しつつ、小規模ホームの特性でもある家庭的なつながりと温もりのある生活スタイルを意識した運営に専心した。併せてより健康的で安心した日常生活が営めるよう最適な看護・介護サービスやその他の各種生活支援サービス等の提供にも腐心した。

一方で、事業運営の今後の在り方についても検討を開始した。望みの門学園、望みの門デイサービスセンターの合築計画を視野に入れつつ、住宅型有料老人ホーム事業とグループホーム事業との両立に係る諸課題の解決策についても検討を進めた。

2 重点実施事項

（1）望みの門ハイムの今後の展望と事業のあり方（達成度：30%）

小規模有料老人ホームとして求められる役割や必要性を意識しつつ、利用者の方々が健康的で安心した日常生活が継続できることを前提としたうえで、合築計画に関連したグループホーム利用者の受入れも可能とするための諸課題の解決方策等の検討をも開始した。

（2）現利用者への安心で快適なサービスの提供（達成度：87%）

- ①小規模ホームの特性であるつながりと温もりのある家庭的なサービスや季節に合わせた行事等の提供に努めた。特に給食の提供にあたっては個々の利用者の嗜好にも配慮した臨時の給食を追加提供し、好評を得た。
- ②法人内の関連事業所（望みの門在宅サービスセンター、望みの門ホームヘルプサービス、望みの門訪問看護ステーション）との連携を密にし、それぞれのサービス提供を通して利用者の方々の安心感の向上に努めた。

（3）従来の事務的な業務の流れの見直しと効率化（達成度：100%）

ISO内部監査で改善の指摘があった作業手順書の改訂案の作成に着手した。特に宿直業務、日勤業務における個々の作業時間配分等が適正であるか否かについての検討を開始した。

3 新規実施事項

（1）望みの門ハイムの今後の展望と事業のあり方の検討

重点実施事項の通り。

4 継続実施事項

千葉県有料老人ホーム設置運営指導指針、介護保険法、その他関係法令並びに望みの門ハイム管理・運営規程に則り、安心・安全な生活の場を提供した。

5 定員及び利用者数

定員（10居室・11名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
稼働率	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
働く率	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%	72.7%

※4～3月1室法人にて借り上げ

6 職員体制

() 内非常勤再掲、2020年3月31日現在

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
管理者	1名	1名	常勤兼務
支援員	2名（1名）	2名（1名）	常勤兼務1名、非常勤1名
計	3名	3名	

※法人事務局職員及びハイム内に併設の在宅サービスセンター職員の協力を得ながら運営した。

7 基本的な利用者サービスの実施状況

（1）年間行事計画

月	行事等
4月	買い物送迎サービス（8・18・29日）、外食送迎サービス（29日）
5月	買い物送迎サービス（10・21・31日）、外食送迎サービス（31日） 生活短歌の会（23日）、
6月	買い物送迎サービス（10・17・28日）、外食送迎サービス（28日） 望みの門バザー（1日）、消防訓練（19日）
7月	買い物送迎サービス（11・30日）、外食送迎サービス（30日） 七夕祭り飾り付け（4日）、生活短歌の会（25日）
8月	買い物送迎サービス（20・28日）、外食送迎サービス（28日） かき氷納涼会（7日）、食事に関する嗜好調査（13日）
9月	買い物送迎サービス（19日）、外食送迎サービス（なし）
10月	買い物送迎サービス（11・21・31日）、外食送迎サービス（31日） 生活短歌の会（17日）
11月	買い物送迎サービス（11・19・28日）、外食送迎サービス（28日） 焼き芋会・懇談会（13日）、生活短歌の会（21日）

12月	買い物送迎サービス（10・19・27日）、外食送迎サービス（27日） クリスマス感謝祝会（14日）、ハイムクリスマス会（25日）
1月	買い物送迎サービス（7・16・29日）、外食送迎サービス（29日） 生活短歌の会（30日）
2月	買い物送迎サービス（3・12・24日）、外食送迎サービス（なし） 運営懇談会（19日）
3月	買い物送迎サービス（18・30日）、外食送迎サービス（なし日） 雛祭り飾り（1日）

（2）日課表

7：30 朝食
11：30 昼食
17：30 夕食

（3）健康管理

インフルエンザ予防接種（11月18日）
通院送迎サービス（毎月6～10日程度）
通院付き添いサービス（毎月）
服薬管理（毎日）

8 施設整備

- （1）1,000千円以上 なし
（2）1,000千円未満 3件、計96千円

9 資金概要

事業活動収入が12,137千円、事業活動支出が13,280千円であった。2018年度と比して695千円の増収、及び789千円の費用増となった。

結果として2019年度は、本部経理区分から6,500千円の借入を行い、△382千円の資金収支差額となった。

養護老人ホーム 望みの門楽生園

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門楽生園は、キリストの教えに基づき、利用者的心身の状況に応じ適切な介護福祉サービスを提供する。その為、個々の支援計画を策定し自立支援を中心としたサービスを推進し安心かつ快適な生活を送ることが出来る施設を目指した。

2 重点実施事項

社会環境の変化に伴い、福祉ニーズが多様化、複雑化し、既存の制度では十分な対応ができない方に対する支援の必要性が高まっている中、各関係機関との密接な連携強化を図り新規利用者獲得推進した。

（1）利用者の獲得及び稼働率向上

① 生活相談員機能の強化を図り、新規利用者獲得、事業収入増に繋げた。

（新規利用者増 達成度 50%）（事業収入増 達成度 95%）

② 東京都内の生活保護率分析・措置状況の情報収集及び近隣四市地域包括支援センター、行政機関等への営業訪問（富津市3回、台東区、木更津市、君津市に2回、港区、香取市、袖ヶ浦市、市川市に1回）行い当施設のPR及び措置依頼を行った。

（達成度 50%）

3 新規実施事項

特になし

4 繼続実施事項

2018（平成30）年度から引き続き（1）～（6）を実施した。

（1）社会参加の促進

①小グループでの外出機会の提供

②車椅子利用者の社会参加促進

（2）個別支援計画の適切な運用

①利用者がわかりやすい計画、立案

②利用者の変化に応じたサービスの見直しと文書化

（3）余暇活動を通じて残存能力の維持

①庭を有効利用し園芸活動

②利用者の自主活動の活性化

③クラブ活動の充実

（4）職員の資質向上

①外部研修を活用し専門的スキルの向上

②施設内研修による、サービス向上

③ISO9001・2015活用、教育訓練実施

（5）利用者と職員の協働体制

①利用者・職員との交流会

（6）健康管理

①年2回の利用者健康診断の実施

②感染症予防委員会を中心に発生・蔓延予防の実施

5 定員及び利用者見込み者数

入所定員 50名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
稼働率	96%	96%	94.3%	94%	96%	96%	97.8%

月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均稼働率
稼働率	96%	96%	94%	93%	94%	95.2%

6 職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1名	1名	
事務員	1名	1名	
生活相談員	1名	2名	
主任支援員	1名	1名	
支援員	7名 (2名)	9名 (3名)	
看護員	3名 (1名)	2名 (1名)	
栄養士	2名 (1名)	2名 (1名)	
調理員	5名 (2名)	6名 (3名)	
合計	21名 (6名)	24名 (8名)	

7 基本的な利用者サービス方針及び実施状況

(1) 年間実施行事

月	行事	事務等
4	花見 (3日)	法外援護金受給、ISO 再認証審査、事務費算定資料提出
5	端午の節句 (1日)、健康診断 消防自主避難訓練 (22日)	収入申告
6	消防署員立会避難訓練 (7日)	消防用等設備点検 (26日)
7	七夕 (5日)	
8	納涼会 (9日)	法外援護金受給、HP 更新
9	敬老会 (25日) 消防自主避難訓練 (25日)	
10	健康診断	看護学生実習受入
12	利用者忘年会 (20日) クリスマス会 (25日)	法外援護金受給、HP 更新、 消防用等設備点検 (18日)
1	新年お楽しみ会 (8日)	
2	節分 (5日) 消防自主避難訓練 (19日)	新年度事業計画
3	消防自主避難訓練 (16日)	市県民税、確定申告

毎月	聖書を読む会、レクリエーション、外出	E V保守点検、電気設備点検、血压測定、淨化槽清掃点検、カンファレンス
----	--------------------	-------------------------------------

(2) 日課表

時間	利用者共通	要介助利用者
6 : 0 0	起床	起床準備着替え等
8 : 0 0 ~ 8 : 3 0	朝食	
9 : 0 0 ~ 1 0 : 0 0	掃除	
9 : 3 0 ~ 1 0 : 0 0	ラジオ体操	
1 0 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0		介助者配茶
1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 0 0	レクリエーション	介助入浴（月・火・木・金）
1 2 : 0 0 ~ 1 2 : 3 0	昼食	
1 3 : 0 0 ~ 1 3 : 3 0		清拭（入浴日以外）
1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0		介助入浴（月・火・木・金）
1 3 : 3 0 ~ 1 4 : 3 0	クラブ活動（隨時）	
1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0	一般入浴（月～土）	介助者配茶
1 8 : 0 0 ~ 1 8 : 3 0	夕食	
1 8 : 4 5 ~	余暇時間 消灯準備	
2 1 : 0 0	消灯	就寝準備着替え等

(3) 健康管理計画

月	利用者
5月	健康診断 体重、血圧 検尿（蛋白、糖、潜血） 血液（貧血、肝機能、腎機能、血糖） ※医師の判断により心電図、胸部レントゲン必要に応じて対象者実施
10月	健康診断 体重、血圧、検尿（蛋白、糖、潜血） 血液（貧血、肝機能、腎機能、血糖） 胸部レントゲン
11月	インフルエンザワクチン接種

月	職員
8月	健康診断 胸部レントゲン、聴力、体重、血圧 採尿（蛋白、糖、潜血） 血液検査（貧血、肝機能、腎機能、血糖）心電図、腹囲（40歳以上） 嘱託医による診察（聴、問、触診）
10月	夜勤従事者健康診断 血液検査（貧血、肝機能、腎機能、血糖）検尿（蛋白、糖、潜血）体重、血圧、腰痛検査、腰痛検査（支援員）
11月	インフルエンザワクチン接種

8 施設整備計画

① 高圧ケーブル更新	1, 068千円
② 居室照明 LED 交換工事	253千円
③ 給湯器修理代	212千円
④ 2階支援員室エアコン設置	131千円

9 資金概要

2019（令和元）年度、事業活動収入139,790千円、事業活動支出113,792千円、事業活動資金収支差額25,997千円。2018年度比、事業収入10,765千円増、事業活動支出3,732千円増、拠点区分間繰入金として10,000千円（本部繰入金）、建物建設積立金18,000千円実施した。

介護老人福祉施設（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）
特別養護老人ホーム望みの門紫苑荘（望みの門ショートステイサービス）
2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門紫苑荘は、キリストの教えに基づき、老人福祉法、介護保険法及び社会福祉法に従い、利用者の人間性を尊重し一人ひとりに合わせた施設サービス計画を作成し、安心・安全に生活できるように介護、支援に取り組んだ。また、地域福祉に寄与すべき福祉施設として、地域の老人福祉に貢献できるよう近隣の事業所と連携をとり運営を行った。

2 重点実施事項

2019年度は、地域の社会資源を活用し、利用者のレクリエーション活動の充実を図ったが、台風の影響によりボランティアの受け入れも困難となり、毎月実施することが出来なかつた。年度の後半は、感染症の時期でもあった為、施設内で出来るレクリエーションを実施しサービスの向上に努めた。（達成率60%）

また、台風で家屋の一部損壊により、在宅での生活が困難な方の受け入れや虐待等が疑われる方など、地域の関係機関と連携を図り、施設機能を有効的に活用しサービスの提供に努めた。（達成率80%）

3 新規実施事項

特になし

4 継続実施事項

2018（平成30）年度から引き続き下記の事項を実施した。

（1）ISO9001・2015の効果的活用

利用者満足向上の為、個別要求事項に配慮した施設サービス計画を確実に実施。年1回のアンケートにより利用者の意見をサービスに反映した。

作業手順書の読み合わせを実施し、業務内容の見直しを行つた。

（2）介護サービスの充実

要介護状態の軽減や悪化防止の為、専門職による指導と生活リハビリで機能維持に努めた。

（3）職員の資質向上

介護福祉士の国家試験に1名が挑戦し合格となつた。

施設内研修についてテーマを決めて実施し資質の向上に努めた。

（4）年間を通じて感染症予防

手洗い、うがいの励行により感染症予防に努め発症者なかつた。

（5）経費削減

水道光熱費の削減に努めたが、例年とほぼ同水準だった。

5 定員及び利用者数（2020年3月31日現在）

定員長期入所50名 短期入所10名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	97%	97.4%	93.2%	94.5%	96.1%	93%

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
稼働率	99.2%	94.4%	95.7%	92.9%	92.9%	95.2%	95.7%

6 職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人 員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1名	1名	
生活相談員	1名	1名	
介護支援専門員	1名	1名	
事務員	1名	1名	
看護員	4名 (1名)	4名	常勤1名入職
介護職員	17名(5名)	18名(5名)	退職3名、5名入職(内2名派遣)
栄養士	1名	1名	
調理職員	4名 (2名)	4名 (1名)	
用務員	(4名)	1名 (3名)	
機能訓練指導員	1名 (1名)	1名(1名)	看護員兼務
計	30名(13名)	31名(10名)	

7 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

月	実施行事	事務等
4月	11.23 買物外出 25.横浜長老教会慰問	16.ISO 再認証審査
5月	5.節句(輪投げ大会) 22.お茶会	25.厨房大掃除
6月	1.バザー 9.野の花の家読み聞かせ 20. 横浜長老教会慰問	27.消防設備点検
7月	20.納涼会(家族会) 31.お茶会	
8月		
9月	15.敬老会(中止)	
10月	23.紫苑荘運動会	9.防災訓練

11月	7.買物外出 21.お茶会	18.インフルエンザ予防接種
12月	14.合同クリスマス会 21.紫苑荘クリスマス会 22.大佐和教会キャロリング、	8.厨房大掃除 11.消防立会防災訓練 19.消防設備点検
1月	1.新年お楽しみ会	9.厨房大掃除 23.県指導監査
2月	2.節分	
3月	1.ひな祭り	26.簡易水道水質検査、貯水槽清掃
毎月	散髪	浄化槽点検、エレベーター点検 内部研修、各種委員会

(2) 日課表

	共通サービス	個別サービス	主な日常生活上の活動
4:00	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
	朝の挨拶	朝の挨拶	
6:00	整容、日常着への着替え	洗面、身支度	起床・離床
	配茶	牛乳・お茶の提供	水分補給
8:00	朝食	朝食	朝食
	入浴 (週2回)、排泄介助	特殊浴、一般浴、おむつ交換	入浴
10:00	配茶	お茶・おやつ	水分補給
	リハビリテーション	ラジオ体操・嚥下体操	リハビリテーション
12:00	昼食	昼食	昼食
	排泄介助	トイレ誘導	
14:00	リネン交換 (週1回)、排泄介助	リネン交換、おむつ交換	
	昼寝、レクリエーション	昼寝、レクリエーション	
16:00	配茶	お茶・おやつ	水分補給
	排泄介助	トイレ誘導、おむつ着用	
18:00	離床、移動	離床、移動	
	夕食 排泄介助	夕食 トイレ誘導、おむつ着用	夕食
20:00	巡回(60分毎)	巡回と様子観察	就寝
	巡回 (60分毎)排泄介助	おむつ交換、様子観察	
22:00	巡回 (60分毎)	巡回と様子観察	消灯
	巡回 (60分毎)	巡回と様子観察	
24:00	巡回 (60分毎)	巡回と様子観察	
	巡回 (60分毎)	巡回と様子観察	
2:00	巡回 (60分毎) 排泄介助	おむつ交換、様子観察	
	巡回 (60分毎)	巡回と様子観察	

(3) 健康管理

月	健康管理
8月	7. 8 日健康診断
9月	6. 17. 20. 27 日老人健診（心電図、レントゲン、問診） 25. 30 日 健康診断問診
10月	1. 4. 8. 11. 15 日老人健診（心電図、レントゲン、問診）
11月	18 日インフルエンザ予防接種
2月	夜勤従事者健康診断

他、定期通院、定期投薬、夜間緊急対応、日々の医療処置を実施

8 施設整備

カーテンシリーズ更新 723 千円

9 資金概要

2019年度は、長期入所者の入院が多くなったが、突然の退院等があり空床での短期入所の受け入れが思うように受け入れられず稼働率も2018年度より2%減少となつた。看護体制加算の取得の申請を怠ってしまった。しかし、10月に介護報酬の改正により介護職員特定待遇改善加算が増えたことにより事業活動収入は237,396千円、事業活動支出は207,763千円、本部への拠点区分間繰入金を18,000円とし当期資金収支差額が2,802千円となつた。

介護老人福祉施設（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）
特別養護老人ホーム望みの門富士見の里（従来型多床室・ユニット型・短期入所）
2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門富士見の里は、創設理念であるキリストの教えに基づき、要介護状態と認定された利用者に対し、介護保険法等の主旨に沿って、利用者の意志及び人格を尊重し、利用者の立場に立った最適な福祉サービスを提供することにより、利用者がその有する能力に応じ、自律した日常生活を営むことができるよう支援することを目指した。

また、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、関係市町村、地域の保険・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めた。

2 重点実施事項

重点実施事項として以下のこと取り組んだ。

（1）外国人技能実習生の受入れ及び育成（達成度0%）

WEB面接による人員選定結果に基づき入国に向け受け入れ機関と調整していたが、年度内の受入れには至らなかった。

（2）生活相談員1名加配による施設機能の完全発揮（達成度50%）

利用者の健康状態が近年になく安定し、入院及び入退所の件数が大幅に減少したことで施設稼働率は過去最高の98.1%となり、その意味で施設機能の完全発揮がされたと捉えられるが、人員の不足により生活相談員の加配が出来ず根本的な改善には至らなかった。

3 新規実施事項

2（1）同じ

4 繙続実施事項

（1）関係機関との綿密な連携

各関係機関からの利用希望コンタクトに対し、迅速な調整によるサービスの早期提供に努めるとともに、利用開始後のサービス提供上の情報共有についても関係機関と綿密な連携を図った。

（2）職員の自己啓発研修への参加奨励

介護人員の中途退職に対する補充が十分でなく、奨励できる体制が取れなかった。また、台風被害の影響で予定していた研修が中止となった為、参加実績16件となった。

5 定員及び利用者数

（1）介護老人福祉施設 定員60名（従来型多床室30名、ユニット型30名）

（2）短期入所生活介護 定員10名

（3）介護予防短期入所生活介護（短期入所生活介護に内包）

（4）稼働状況（%）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	98.9	99.4	97.7	98.0	98.3	98.2
10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
98.6	98.6	96.9	96.2	97.1	99.3	98.1

6 職員体制（3月31日現在）

() 内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1	1	常勤1名
生活相談員（副施設長兼務）	1	2	常勤1名
介護支援専門員	1	1	常勤1名
事務員	1	1	常勤1名
看護員	5 (2)	5 (2)	常勤4名、非常勤2名
介護職員	27 (3)	32 (1)	常勤23名、非常勤3名
栄養士	1	1	常勤1名
調理職員	7 (1)	7 (1)	常勤6名
用務員	6 (5)	6 (5)	常勤2名、非常勤5名
医師	1 (1)	1 (1)	非常勤1名
機能訓練指導員	1 (1)	2 (1)	非常勤1名（理学療法士）
合計	52 (13)	59 (11)	

7 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

月	行事	余暇活動	会議・研修・事業	管理・その他
月例	誕生会 外出行事 駄菓子屋喫茶	礼拝、理髪、歯科往診 各種クラブ活動 讚美クラブ 卓球バレー 書道クラブ 折り紙クラブ 他	ケアカンファレンス 個別機能訓練 事故防止・身体拘束廃止委員会 感染症対策委員会 褥瘡予防委員会 フロア・リーダー・全体会議 入所検討委員会	介護報酬請求 エレベーター点検 電気設備点検 浄化槽点検 消防設備点検(年2回)
4月	/16. 23 春の遠足	/24 駄菓子屋喫茶	/1 幹部会議 /10-11 法人新任職員研修	/3 廉房大掃除
5月	/1 節句 /14. 21 春の遠足	/22 駄菓子屋喫茶	/8 監事監査、/20 理事会 /25 創立記念式、人事考課	
6月	/1 バザー		/3 幹部会議、/18 評議員会 /24-28 介護等体験受入	/7 浄化槽水質検査 カーテン業者更新 /8-9 公用車2台車検
7月	/3 七夕	/17 琴光会 /24 駄菓子屋喫茶	/1-5 介護等体験受入 /10 法人中堅職員研修	/11 カーテン納品
8月	/21 納涼会	/28 駄菓子屋喫茶	/5 幹部会議 /8 職員健診	/7 廉房大掃除 /20 1階エアコン室外機修理
9月	/18 敬老会	/25 駄菓子屋喫茶	/25 職員健診 実践発表大会中止	/14-16 電源車対応
10月	/8. 22. 24. 29 秋の遠足 スポーツ大会中止	/23 駄菓子屋喫茶	/7 幹部会議、人事考課 /25 施設福祉部連絡会議 /30 インフルエンザ予防接種	/17 内部経理監査
11月	/2 湿地区バザー /13 競技大会	/27 駄菓子屋喫茶	/6 インフルエンザ予防接種	/6 災害用電話回線設置 /29 消防訓練(自主)
12月	/14 合同クリスマス会		/2 幹部会議 /25 理事会	/3 2階エアコン基板交換 /4 廉房大掃除 /27 消防訓練(自主)
1月	/1 元旦礼拝 /1 新年祝賀会	/29 駄菓子屋喫茶	/6 幹部会議 /24-25 県指導監査 /29 職員健診(腰痛問診) 次年度予算計画	
2月	/5 節分		/4 理事会 /5. 12. 19. 26 職員健診(腰痛問診) /26 新型コロナウィルス感染予防研修 次年度事業計画	/28 消防訓練(立会)
3月	/4 節句	/25 駄菓子屋喫茶	/2 幹部会議、/26 理事会 /26 内部経理監査	/18 浄化槽汚泥抜取 /27 貯水槽清掃

(2) 日課表

	共通サービス	個別サービス	主な日常生活上の活動
4:00	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
	朝の挨拶	朝の挨拶	
6:00	整容、日常着への着替え	洗面、身支度	起床・離床
	配茶	牛乳・お茶の提供	水分補給
8:00	朝食	朝食	朝食
	入浴 (週2回)、排泄介助	特殊浴、一般浴、おむつ交換	入浴
10:00	配茶 排泄介助	お茶・おやつ トイレ誘導	水分補給
	リハビリテーション	ラジオ体操・嚥下体操	リハビリテーション
12:00	昼食	昼食	昼食
	排泄介助	トイレ誘導	
14:00	リネン交換 (週1回)、排泄介助 昼寝、レクリエーション	リネン交換、おむつ交換 昼寝、レクリエーション	
	配茶	お茶・おやつ	水分補給
16:00	排泄介助	トイレ誘導、おむつ着用 おむつ交換	
	離床、移動	離床、移動	
18:00	夕食 排泄介助	夕食 トイレ誘導、おむつ着用	夕食
	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	就寝
20:00	巡回 (30分毎)、排泄介助	おむつ交換、様子観察	
	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	消灯
22:00	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
24:00	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
2:00	巡回 (30分毎)	巡回と様子観察	
	巡回 (30分毎)、排泄介助	おむつ交換、様子観察	

(3) 健康管理 春の健康診断

職員 42 名

秋の健康診断

職員 22 名、利用者 52 名

インフルエンザ予防接種

職員 44 名、利用者 64 名

他、定期通院、定期投薬、夜間緊急対応、日々の医療処置を実施

(4) 介護

利用者の身体的・精神的特性に配慮しつつ、適切な介護・援助を行い、自立した生活が送れるよう支援した。

(5) 食事の提供

食事は栄養並びに身体状況及び嗜好を考慮し、利用者の自立支援を考慮して可能な限り離床して提供した。

(6) 相談及び援助

利用者及び家族に対して適切に相談に応じるとともに必要な助言・援助を行った。

(7) 社会生活上の便宜の供与等

レクリエーションの機会は、年間を通してほぼ計画通りに実施。また行政機関等の手続きを代行した。

(8) 機能訓練

利用者の心身の状況等を踏まえ専門家の指導を仰ぎながら個別に機能訓練を実施。

(9) 健康管理

必要に応じて利用者の健康保持のための適切な措置を取るとともに、入院が必要な場合は、本人及び家族の希望を勘案して適切な便宜を図った。

(10) 苦情解決

利用者及び家族等の苦情に迅速かつ適切に対応する為、苦情受付窓口を設置対応。

(11) 感染症対策

感染症対策委員会を中心に、新情報の収集と発生・蔓延の予防に努めた。

(12) 事故防止

事故防止委員会を中心に事故の内容報告・分析を行い再発防止に努めた。

(13) 地域との連携

ボランティア受入及びバザー等への参加を概ね計画通り実施

(14) 職員の資質向上

適切なサービスの提供のために職員体制を整えるとともに、職員の資質向上のため積極的に研修参加の機会を設けた。

(15) 非常災害対策

非常災害対策について職員会議等で定期的に職員に周知、避難訓練を適切に実施。更に、災害想定で非常食の炊き出し訓練を計画したが、台風 15, 19 号により実践対応となった。

(16) 生活相談業務

①施設の存在意義を十分に發揮するため、施設ベッドの空床を可能な限り必要とする方に提供するよう努めたが、1 (2) で記した結果となった。

②地域に根差した施設、イメージの良い施設をめざし、入所相談に留まらず、居宅介護に悩んでいる方の相談など入所に関わらない相談業務にも積極的に取り組んだ。

③入所待機者管理、面接、契約、請求など多様な業務を適切に分類し、計画的かつ迅速に行い、効率的な施設運営を目指したが、1 (2) で記した結果となった。

④苦情受付担当者として適切かつ迅速な対応に心がけ、情報共有と是正に努めた。特にお客様対応においては、直接相対での対応に心がけた。

⑤施設運営の改善に心がけ、外部情報を積極的に取り込み有効活用した。

⑥利用者はもとより職員のストレスにも十分注意を払い、スーパービジョン等によりストレスの緩和につなげた。

8 施設整備

(1) 非常災害用設備の整備

① 200V 発電機 1 台新規設置 284 千円

② 100V 発電機 2 台追加設置（合計 4 台整備）150 千円

9 資金概要

事業活動収入は前年比 15,188 千円増の 324,928 千円、事業活動支出は前年比 7,701 千円減の 280,564 千円で、事業活動資金収支差額は前年比約 22,890 千円増の 44,363 千円となった。建設積立金を 5,000 千円、本部への拠点区分間繰入金を 20,000 千円とし、当期資金収支差額は 3,753 千円で前年比 1,351 千円増となった。

通所介護事業 望みの門デイサービスセンター

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門デイサービスセンターは、キリストの教えに基づき、利用者の意思と人権を尊重し可能な限り在宅にてその有する能力に応じた自立した生活を営むことが出来るよう支援するとともに日常生活上必要な援助による社会的孤立感の解消、機能訓練による心身機能の維持向上、利用者家族の身体的、精神的負担の軽減を図り、法人理念・基本方針及び、社会福祉法・老人福祉法・介護保険法の基本理念に従い運営した。

2 重点実施事項

重点実施事項として以下のこととに取組んだ。

- (1) 職場内研修を年間6回、職場外研修一人1回以上参加（達成度100%）
 - ①事業計画周知、法人規定類確認、ヒヤリハット、事故、苦情の取り扱い等研修
- (2) 目標平均利用者数27（年間稼働率87%以上）（達成度100%）
 - ①契約数増、新規契約者獲得、日々の利用者数の管理により稼働率83%～97%
 - ②アンケート、相談苦情による利用者家族の意見を早めに改善
 - ③ソファーの入替配置、テーブル配置、等落ちつける空間に環境改善
 - ④利用日増を希望する利用者多数
 - ⑤事故なし
- (3) 資格取得、3名以上の資格取得（達成度100%）
 - ①介護支援専門員1名、防火管理者2名、資生堂ADL向上講習1名、ユマニチュード初級編1名、社会福祉主事取得中1名
- (4) 新規利用者50名獲得（達成度68%）
 - ①在宅支援センター営業活動、パンフレット作成
- (5) 広報宣伝活動、年間12回の在宅支援センター営業（達成度100%）
- (6) 内部ISO監査員1名養成（達成度100%）
 - ①内部ISO監査員取得1名
- (7) 月末登録件数80件以上（達成度100%）
 - ①当初66名～81名達成、あまり多いと希望通り受けられない

3 新規実施事項

新規実施事項として以下のこととに取組んだ。

- (1) サービス提供時間の短縮（達成）（達成度66%）
 - 業務削減ICT導入により（達成）
 - 残業前年比70%減（未達成）
- (2) 共生型サービス指定申請と実施準備（未達成）（達成度50%）
- (3) 有休消化個別年間付与の50%以上（達成）（達成度100%）
- (4) ICT化による記録及び機能訓練の充実強化と業務量削減（達成）（100%）
- (5) 利用者アンケート回収率50%以上（達成）（100%）
- (6) 困難者への着替え洗濯・管理サービスの実施（達成）（100%）
- (7) 朝食及び食後の投薬管理の実施（達成）（100%）
- (8) 地域の商店を活用し買物、当日夕食用の弁当手配代行サービス提供（未達成）
 - （達成度0%）

4 継続実施事項

2018（平成30）年度から引き続き以下について継続実施した。

- (1) ISO 維持審査に向け、各種記録類の整備
- (2) 職員の教育・資質の向上
- (3) 利用者ADLの維持・向上
- (4) 法人内連携と情報共有

5 定員及び利用者数

利用者定員30名

月	4	5	6	7	8	9
稼働率%	85%	83%	84%	86%	84%	90%

月	10	11	12	1	2	3	年間平均
稼働率%	87%	92%	97%	95%	93%	91%	89%

6 職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人 員		備考
	現員	計画員数	
管理者	1名	1名	
生活相談員	1名	1名	
看護員	1名（1名）	1名（1名）	常勤兼務1名
機能訓練	0名（1名）	0名（1名）	常勤兼務1名
介護員	3名（3名）	4名（3名）	不足
送迎員	0名（3名）	0名（5名）	不足
計	6名（8名）	7名（10名）	

7 基本的な利用者サービスの実施状況

（1）年間実施行事

月	行事予定	事務等予定	月	行事予定	事務等予定
4	いちご狩り	機関誌発行	10	運動会週間 日中活動	避難訓練
5	しょうぶ湯 おやつ外食（希望者）		11	感謝祭かずさの里 手作りおやつの日 紅葉ドライブ	
6	ミニバザー 昼食外食（希望者）		12	クリスマス週間 忘年会週間 日中活動	機関誌発行 HP更新
7	おやつバイキング	避難訓練	1	新年会 手作りおやつ週間 日中活動	
8	納涼祭 おやつの日	機関誌発行	2	節分豆まき 芋煮会 日中活動	

9	敬老会		3	お楽しみ写真撮影 ひな祭り 日中活動	避難訓練
---	-----	--	---	--------------------------	------

(2) 日課表

利 用 者 日 課	
8 : 0 0	ご家族送り利用者開始
9 : 1 5	手洗い・うがい、バイタル・水分補給 入浴開始 →機能訓練随時 →整容（整髪・髭剃り） →隨時機能訓練 嚥下体操→消毒
1 1 : 5 0	食事開始
1 2 : 3 0	→静養・リラクゼーション
1 4 : 0 0	→一斉体操・レク開始 →隨時機能訓練
1 5 : 0 0	ティータイム
1 6 : 1 5	送り開始
1 7 : 2 0	ご家族迎え利用者帰宅

(3) 健康管理

- ①既往歴等を把握し体調不良等の早期発見
- ②センター到着時、うがい・手洗い・消毒等の徹底
- ③機能訓練強化による身体機能維持、転倒防止
- ④年2回（9月・3月）の体重測定
- ⑤他職種、ご家族との連携強化

8 施設整備

- (1) ノートPC 90千円
- (2) ICT化リハプラン、カイポケ導入年間 934千円

9 資金概要

- (1) 収入は事業活動収入は78,718千円、事業活動支出は52,896千円で例年と比べ、収入は3,696千円増、支出は1,114千円減であった。
- (2) 学園、デイ、建物工事支払の為、積立資産取崩41,000千円。を行い、工事費用に充てた。

老人介護等事業 望みの門ホームヘルプサービス

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門ホームヘルプサービスは、キリストの教えに基づき、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、要介護状態等の場合においても、可能な限り居宅においてその有する能力に応じ自立した日常生活が営めるよう、個別ニーズを明らかにし、介護支援専門員からのケアプランに沿った訪問介護計画書を作成、契約に基づいた適切なサービスを実施した。

2 重点実施事項

重点実施事項として以下のことに取り組んだ。

- (1) 新規利用者の獲得、利用者増（達成度100%）

月平均の要介護者訪問回数484回と目標380回を大きく上回り、収益も黒字に転じた。

- (2) サービスの質の向上（達成度90%）

職員全員年1回外部研修への参加を行なった。またケース会議等を毎月開催しヘルパー間の連絡・報告・確認を再認識、ミスの無いように徹底を図った。サービス計画の見直し・作成、作業手順書の見直し作成し利用者主体のより良いサービスをめざした。感染、事故等ではなく、軽微不適合に対しては会議で報告、対策を話し合い周知に努めた。

3 新規実施事項

なし

4 繼続実施事項

2018（平成30）年度から引き続き、以下のことに取り組んだ。

- (1) 介護保険法、その他関係法令に準拠するとともに、作業手順書の見直しを行った。

- (2) 非常勤職員（登録ヘルパー）より1名が常勤職員（サービス提供責任者）となり、職員3名、非常勤職員（登録ヘルパー）は9名の体制となった。非常勤職員の増員は図れなかつたが、誰も辞めることなく非常勤職員人数は現状維持となった。

5 定員及び利用者数

サービス実施状況（4月～12月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
訪問介護述べ回数	411	461	482	513	512	478	531	489	473
予防訪問利用人数	28	28	27	27	26	24	25	25	27

サービス実施状況（1月～3月）/年間平均数

	1月	2月	3月	年間平均数
訪問介護述べ件回数	500	467	492	484回
予防訪問利用人数	24	23	21	25.4人

6 職員体制

職種	人 員		計画員数
	現 員		
管理者	1名		1名
サービス提供責任者	2.5名 (内0.5兼務)	0名	2.5名 (内0.5兼務)
訪問介護員	常勤0名	非常勤9名	常勤0名 非常勤13名
計	3名	常勤換算2.1名	3名 (常勤換算3名)

7 基本的な利用者サービスの実施状況

サービスの営業日及び提供時間は平日、土曜、祭日営業とし、独居高齢者・家族生活の多様化等に伴い、利用者ニーズに応えるべく支援を行った。日曜日に関してはヘルパー1人の都合上控えていたが、利用者のニーズがある時には支援を行った。

訪問介護計画に沿って、利用者毎の訪問介護業務指示書を再作成し、共通認識をはかり、決め細やかなサービスの提供に努めた。

今後も、利用者本人、家族の要望、意向を十分傾聴し、主訴を的確に把握し、適切で質の高いサービスを提供したい。

8 施設整備

特になし

9 資金概要

2019年度は2018年度に比べて大幅に支援件数が増えた。常勤職員1名増員で人件費大幅増にもかかわらず、事業活動収入が上回った。

事業活動収支

2018年度 収入 17,320千円	2019年度 収入 27,051千円 (前年度比+9,730千円)
支出 19,874千円	支出 24,700千円 (前年度比+4,826千円)

事業活動収支差額

2018年度	△2,553千円	2019年度	2,350千円
--------	----------	--------	---------

中核地域生活支援センター 君津ふくしネット

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門中核地域生活支援センター君津ふくしネットは、キリスト教の教えに基づき、地域の子ども、障害者、高齢者など誰もがいるままにその人らしく地域で暮らすことができる地域社会の実現をため、24時間365日体制で制度の狭間にある方などに分野横断的に幅広く受け止め包括的な相談支援・関係機関とのコーディネート・権利擁護・市などのバックアップなどを、高度な専門性をもって寄り添いながらの支援をおこない、地域のセーフティネットとして福祉の向上につながることを目的に運営する。

2 重点実施事項

重点実施事項として以下のことに取り組んだ。

(1) 包括的相談支援事業（達成度 80%）

- ①知的障害者で男性問題がある女性や、刑務所からの出所者、介護認定を受けていない高齢者など制度や社会の変化から生じた生活不安、生きづらさを抱えた方や生活不安を抱えた方を分野別に幅広く相談支援を実施した。
- ②相談に当たっては、対象者本人や家族の抱えている問題に対し家庭や関係機関を訪問し様々な方法で本人に寄り添った必要な支援が提供できるよう調整援助を行った。

(2) 地域総合コーディネート事業（達成度 80%）

- ①ケースによっては、警察、木更津病院、さつき台病院、法テラス、君津特別支援学校、他事業所と連携を取り、課題を抱えた方、制度や社会の変化から生じる新たな課題により生活不安を抱えた方及び、広域的な調整が必要な方など、地域で生きづらさを抱えた方を分野横断的に幅広く受け止めた相談支援を継続的に実施しその方が、地域での生活に順応していくように努めた。

- ②個別支援における課題を地域課題として取り上げ、関係機関と情報の共有。誰もが安心して生活できる地域づくりで、必要な場合は新たなサービスや社会資源の創出を促進した。

(3) 市町村等バックアップ事業（達成度 90%）

- ①児童に関しては、要対協会議への参加。高齢者は各地域包括との連携を図り、障害者は各市総合支援協議会の委員や部会員として会議に参加し情報の共有、地域の課題の検討を行った。

(4) 権利擁護事業（達成度 85%）

- ①本人が認識していない権利侵害や権利を有しながらも必要な支援を受けられていない場合についても積極的に把握、支援を行った。

- ②富津市の障害者総合支援協議会、権利擁護部会へ参加し各機関と連携し研修等の企画、参加を行った。

(5) その他（達成度 80%）

- ①中核の研修会への参加はできていないが、その他ひきこもり等への研修会への参加は積極的に行った。

3 新規実施事項

2019年度は、新規計画実施予定共になし。

4 継続実施事項

2018年度から引き続き、君津市生活困窮者自立支援事業（生活自立センターきみつ）、

障害者グループホーム等支援事業、障害者虐待防止センター機能一部委託事業、君津ふくしネットが展開する地域の交流事業を展開した。

- (1) 君津市生活困窮者自立相談支援事業（生活自立支援センターきみつ）では、君津市の地域福祉の実状把握、当該事業の根拠法に基づく堅実な運用を実行した。
新規相談実績 203 件、支援実人数 927 人、支援件数 3,900 件
プラン作成件数 158 件 プラン作成件数は県トップとなった。
- (2) 障害者グループホーム等支援事業では、当該事業の県実施要綱に基づく堅実な運用を実行した。
開設希望者 4 事業所、開設したグループホーム 2 事業所、相談件数延回数 932 件
(利用者本人支援含む)
- (3) 君津圏域四市（袖ヶ浦市、木更津市、君津市、富津市）障害者虐待防止センター機能一部委託事業では、当該事業の君津圏域四市の委託契約書、仕様書に基づき堅実な運用を実行した。（シェルター利用件数 11 件）
- (4) 君津ふくしネットが展開する地域の交流事業を、君津圏域四市（袖ヶ浦市・木更津市・君津市・富津市）の障害者相談支援事業所とも連携を図りながら、地域毎の集まりを提供することで引きこもりがちな方々の地域参加につなげる場づくりを企画した。

5 相談件数

相談件数 5,577 件 目標値 4,900 件からの比率

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	86.25%	108.3%	130%	134.3%	116.6%	138.2%

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
稼働率	124%	113.2%	79.9%	145.7%	82.2%	77%	113.3%

6 職員体制

中核事業・生活困窮者事業・グループホーム等事業各仕様書に基づく職名・職員配置基準	人員		備考
	現員	計画員数	
センター長	1 名	1 名	常勤（地域総合コーディネーター）
相談支援員 (コーディネーター)	5 名	6 名	常勤 3 名（生困事業 2 名含） 常勤兼務 1 名 非常勤 1 名
障害者グループホーム等 支援ワーカー	1 名	1 名	常勤
計	7 名	8 名	

7 基本的な年間行事

(1) 年間会議等

4月	・障害者グループホーム等支援事業連絡協議会総会 ・中核地域生活支援センター総会及び、例会	10月	・中核地域生活支援センター例会
5月	・中核地域生活支援センター例会 ・地域福祉フォーラム運営委員会	11月	・中核地域生活支援センター例会
6月	・中核地域生活支援センター例会 ・ハローワーク障害者雇用連絡会議	12月	・中核地域生活支援センター例会
7月	・中核地域生活支援センター例会	1月	・中核地域生活支援センター例会
8月	・中核地域生活支援センター例会	2月	・中核地域生活支援センター例会 ・地域包括支援センターとの意見交換会議
9月	・中核地域生活支援センター例会 ・中核地域生活支援センター県市との意見交換会議	3月	・中核地域生活支援センター例会

(2) 年間行事等

4月		10月	
5月		11月	・木更津こどもまつり
6月	・グループホーム新規開設セミナー	12月	・法人クリスマス会 ・ハローワーク障害者合同面接会共催
7月	・グループホーム開設セミナー	1月	・グループホーム大会
8月	・木更津港まつり ・中核地域生活支援センター大会 2019	2月	・グループホーム南総地区講座 ・富津市ユニバーサルフェスタ
9月	・グループホーム講座	3月	

8 施設整備

2019年度は、特になし。

9 資金概要

事業活動収入は、46,161千円、事業活動支出は、45,632千円で、人件費支出増に伴い例年と比べ、支出が1,658千円増となり収支差額が907千円減となった。事業活動資金収支差額は、529千円となった。

地域包括支援センター 望みの門富津地区地域包括支援センター

2019（令和元）年度事業報告

1 事業概要

望みの門富津市富津地区地域包括支援センター（以下、包括支援センター）は、法人の定めるキリストの教えに基づき、住民の尊厳ある自立した生活を実現する事を理念とし、地域の特性を活かし、様々な社会資源を有機的に組み合わせ支援体制の充実のため、富津市役所より委託を受け富津市富津地区の日常生活圏域における市の介護・福祉行政の一翼を担う公的な機関として公正中立を旨とし事業を行った。

総合相談支援事業については、介護保険申請や介護・予防給付についての相談件数が最も多かった。その中で高齢者虐待・成年後見制度についての相談に関しては、市役所・関係機関と連携・協働して慎重に対応した。また、認知症に関する相談件数も多くなっており、認知症高齢者を介護する家族にとって、身体的・精神的に大きな負担となっている。このことから地域ケア個別会議や認知症家族交流会等を開催し、認知症高齢者が在宅での生活を継続できるよう支援を行い、地域住民への普及啓発として認知症サポーター養成講座を実施し、認知症に対する正しい知識を持つことができるようにした。

このようにさまざまな事例を受け止め、社会福祉士、看護師、主任ケアマネがそれぞれの専門性やスキルを活用して対応した。また、関係機関（行政・民生委員・介護支援事業所・自治会等）とも連携し、必要に応じ地域ケア会議を開催し、地域課題の把握、情報の共有、地域のネットワーク構築等、地域づくりの為の有効な手段となっており、今後も地域包括ケアシステムの構築への取り組みを進めていく。

地域包括支援センターが地域の中で活動を続けていくためには、地域や関係者の方に機能や活動を知ってもらい有機的なつながりを持つことが重要であり、信頼感のあるつながりを築くため地域の行事や会合、健康教室等の参加を積極的に行い、顔の見える関係を築くことに努めた。

2 重点実施事項

高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続する事が出来るようにするため、富津市第7期介護保険事業計画及び富津市高齢者福祉計画に沿って地域の高齢者の心身の健康の保持、保険・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助、支援を包括的に行うため、介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業、任意事業（認知症サポーター等養成講座）、多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築、指定介護予防支援事業、その他の業務（高齢者グループホームの運営推進会議への出席・富津市ケアマネジャー協議会事務局業務等）を着実に実施した。（達成度80%）

（1）介護予防・日常生活支援総合事業

①介護予防ケアマネジメント

訪問型・通所型サービス

介護予防 日常生活支援総合事業に位置づけられたサービスを利用

②一般介護予防事業

介護予防把握事業

圏域内の要援護高齢者または、要支援となる恐れのある概ね 65 歳以上の者

地域介護予防活動支援事業

住民主体の通い場

(2) 包括的支援事業

高齢者が住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活を継続していくことが出来るよう支援を必要とする高齢者を把握し、様々な相談を受け、どのような支援が必要かを検討し、適切なサービスや機関に繋げるよう努めた

① 総合相談支援業務

② 権利擁護業務

成年後見制度の活用促進

高齢者虐待への対応

消費者被害の防止

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

包括的・継続的なケア体制の構築

地域における介護支援専門員のネットワークの構築

地域のケアマネジャーの後方支援・ケアプラン作成の指導、助言

④ 介護予防ケアマネジメント

⑤ 地域ケア個別会議の開催

⑥ 在宅医療・介護連携推進事業

⑦ 生活支援体制整備事業…生活支援コーディネーターとの連携

⑧ 認知症総合支援事業

(3) 任意事業

認知症サポーター等養成事業

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築

(5) 指定介護予防支援事業

(6) その他の業務

① 会議、研修会への出席

② 高齢者グループホームの運営推進会議への出席

③ 地域の団体からの求めによる会議などへの出席

④ 富津市ケアマネジャー協議会事務局業務

⑤ その他

3 新規実施事項

(1) 包括的支援事業の機能強化（達成率 80 %）

① 自立支援のための地域ケア会議の開催

② 在宅医療・介護連携推進事業

③ 生活支援体制整備事業

④ 認知症施策の推進

4 継続実施事項について

- (1) 介護予防・日常生活総合支援事業
- (2) 包括的支援事業

(H31.4～R2.3)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	14	19	21	15	16	23	20	16	20	15	15	16	210

(3) 任意事業

(4) 指定介護予防支援事業

5 定員及び利用者数

要支援1・2の認定者のうちサービス利用を希望する高齢者に対し効果的かつ適正にサービスを提供できるよう、生活機能の状況や課題に即した自立支援型介護予防ケアプランを作成した。

介護予防付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
直営	85	96	87	90	80	79	83	86	85	93	87	83	1034
委託	47	38	43	38	44	35	37	36	39	35	38	39	469

(年間の平均：直営 86 件／委託 39 件)

6 職員体制

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
管理者（兼務）	1名	1名	管理者は相談支援員兼務
相談支援員	2名	2名	社会福祉士、主任介護支援専門員
事務員	1名	1名	看護師を各1名＋当該3資格のいずれか1名が必須
介護支援専門員	1名	1名	

7 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事（施設の事務的な実績について）

①地域ケア会議 9件

②地域ケア個別会議 0件

③認知症サポーター養成講座 6回 受講者計450名

(2) 日課表

なし

(3) 健康管理

富津市いきいき百歳体操 年間 62回実施

8 施設整備

なし

9 資金概要

富津市からの委託事業収入は29,354千円、介護保険事業収入は4,755千円、であったが、職員退職により収入を2,400千円富津市に返金した。よって事業活動収入は31,709千円となり例年と比べ1,472千円減となった。事業活動支出は30,311千円であり、例年と比べ1,611千円の減となった。これは上記の通り職員退職が原因である。収支差額は例年度と同水準であった。

訪問看護事業 望みの門訪問看護ステーション

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門訪問看護ステーションは、法人の設立・運営の理念であるキリストの教えに基づき、訪問看護に必要な知識・技術・人間性を磨き自己満足に陥ることなく、利用者の権利を尊重し信頼関係の構築に努める。また地域の利用者の安心に繋がる社会資源のひとつとしての役割を確立することを目指し当事業を運営した。

2 重点実施事項

重点実施事項として以下のことに取り組んだ。

(1) 富津市ケアシステムの一員として認知症早期支援チーム会議参加での他事業所との連携を深め、また認知症カフェ「門カフェ」への参加を行い地域貢献、訪問看護の宣伝実施を行った。(達成度 70%)

(2) 収入の安定化を目指し月収入1,800千円を目標に精鋭努力したが月平均収入約1,700千円に留まり、まだ本部拠点区分から借り入れをしている状況であった。

(達成度 0%)

(3) 収支を考え人材の確保については非常勤訪問看護師1名を獲得することができた。
(達成度 100%)

3 新規実施事項

新規実施事項として以下のことに取り組んだ。

(1) カラー印刷機購入により ISO書類の見易さの向上
①カラー印刷機1台購入(達成度 100%)

4 継続実施事項

2018（平成30）年度から引き続き、望みの門訪問看護の周知活動、収入の安定化につながる働きを継続したが、思うように収益の伸びがみられなかつた。
今後も引き続き継続、実施していく。

(1) 機関紙さくら草の配布や定期的な挨拶まわり等、広報・宣伝活動の実施
(2) 安定した訪問看護の提供 目標：月収入1,800千円を目指す

5 定員及び利用者数

利用者総数名 153名 (開設から永眠等で終了者 79名) (単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者総数	131	134	135	140	141	141	143	149	151	153	153	153	
新規	2	3	1	5	1	0	2	6	2	2	0	0	2.4
実績	43	43	39	45	44	43	42	45	44	44	40	39	37.8
訪問回数(回)	249	261	243	256	285	254	260	293	302	283	274	282	250

6 職員体制 (常勤換算 2・52名)

職名	現員	計画数	備考
管理者	1名	1名	訪問看護員と兼務
訪問看護員	3名	3名	常勤(2名)非常勤(1名)

理学療法士	2名	2名	非常勤（2名）
合計	6名	6名	

7 基本的な利用者サービスの状況

（1）年間実施行事

	訪問看護ステーション内行事	法人・訪問看護ステーション外行事
4月	・職員会議（第4木曜日）	・幹部会議　・医務会議 ・新任研修　・IT委員会 ・認知症初期集中研修
5月	・職員会議（第4木曜日）	・職員検診・認知症初期集中研修 ・創立記念式典　・地域福祉部会議 ・望み会バザー委員会
6月	・職員会議（第3木曜日） ・感謝祭参加	・のぞみ会感謝祭・つなぐ会会議 ・かずさスキンセミナー ・幹部会議　・医務会議
7月	・職員会議（第3水曜日）	・事業所挨拶回り ・富津市認知症早期支援研修
8月	・職員会議（第4木曜日） ・職員検診手伝い	・幹部会議・医務会議・防災訓練打合せ ・ISO内部監査員養成講座・職員健診 ・富津市認知症早期支援研修
9月	・職員会議（第4木曜日） ・内科検診手伝い	・スポーツ大会会議・つなぐ会会議 ・介護連携会議　・内科検診 ・富津市認知症早期支援研修・集団指導
10月	・職員会議（第4木曜日）	・スポーツ大会・避難訓練・幹部会議 ・感謝祭会議・介護保険更新手続き ・ストーマケア研修 ・医務会議・富津市認知症早期支援研修
11月	・職員会議（第4水曜日） ・インフルエンザ予防接種手伝い	・かずさ地区感謝祭・看護協会研修 ・防災訓練・インフルエンザ予防接種 ・認定看護師セミナー・地域在宅研修
12月	・職員会議（第4木曜日）	・幹部会議、医務会議・地域福祉部会議 ・法人クリスマス会・認知症カフェ ・富津市認知症早期支援研修
1月	・職員会議（第4木曜日）	・元旦礼拝・君津在宅新年会・富津市認知症早期支援研修・認知症カフェ
2月	・職員会議（第4木曜日）	・地域福祉部会議・ISO内部監査 ・医務会議 富津市認知症早期支援研修 ・認知症カフェ
3月	・職員会議（第4木曜日）	・幹部会議・富津市認知症早期支援研修 ・つなぐ会会議　・認知症カフェ

（2）実施サービス

- ①病状・障害・日常生活の状態や療養環境のアセスメント
- ②清潔の保持、食事及び排泄等の療養生活の支援
- ③瘡褥の予防と処置

- ④日常生活・社会生活の自立を図るリハビリテーション
- ⑤ターミナル期の看護
- ⑥認知症・精神障害者等の看護
- ⑦療養生活や介護方法の指導・相談
- ⑧カテーテル等の管理
- ⑨その他医師の指示による医療処置及び検査等の補助
- ⑩日常生活用具の選択・使用法の訓練
- ⑪住宅改修の相談・指導
- ⑫サービス事業所等サービス担当者会議

*営業時間は、月～金曜日の8時30分～17時30分 緊急時の加算及び24時間連絡対応の加算依頼を受けている利用者については、夜間、休日等の対応を実施

(3) 健康管理計画

①利用者に対して

主治医の指示書をもとに訪問看護を提供し、看護計画の見直し及び評価を行い、毎月報告書を持参または郵送し連携を図る。

利用者の病状急変時等においては、主治医に連絡指示を仰ぐか、連絡方法について文書で対応方法を説明する。

8 施設整備

カラー印刷機 32千円

9 資金概要

事業活動収入計19,910千円、事業活動支出計22,281千円で、よって、事業活動資金収支差額△2,371千円となった。2018年度との比較では収入600千円の減、支出1,535千円の減となった。収益差額は支出減により935千円増となったが、次年度資金不足となる為、本部拠点区分より借入金3,000千円を受けた。

居宅介護支援事業 望みの門在宅サービスセンター

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門在宅サービスセンターは、キリストの教えに基づき、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ちその利用者が可能な限り居宅において、有する能力に応じ自立し日常生活を営むことができるよう、利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて利用者の選択に基づき適切な保険・医療・福祉サービスが、多様な業者から、総合的かつ効率的に提供されるよう支援した。事業の運営にあたっては、市町村、他の居宅介護支援事業者、介護保険施設等の連携に努めた。

常勤職員3名（管理者兼務1名含む）体制と人員の変更はなかった。在宅での重度化が進む中、訪問看護、訪問介護などの事業所を通し地域福祉部の連携の強化を図り、在宅生活が継続できるよう援助活動を行った。

2 重点実施事項

重点実施事項として以下のことに取り組んだ。

（1）ケアマネジメントの充実（達成度100%）

法令に遵守したケアマネジメントの実施により目標値105件を実行できた。

（2）介護支援専門員の質の向上（達成度100%）

訓練計画に予定されていたケアマネ協議会主催研修及び4市合同研修は全て参加し質の向上に努める事ができた。

（3）地域福祉部との連携強化（達成度69%）

部会内での情報共有につとめ各事業所との緊急対応に対して迅速な対応を行った。更に各事業所への紹介に努めた

3 新規実施事項

なし

4 継続実施事項

2019年度から引き続き居宅介護支援業務を実施した。

（1）居宅介護支援

（2）介護予防支援

（3）介護認定調査

（4）代行業務

法令上介護支援専門員1名につき介護支援35件の制限があることから収益増を図る為、年度後半から認定調査件数（9月迄：委託料5,142円・10月から5,238円/1件）増に努めた。（達成度100%）9月は湊地区台風（停電）の影響で認定調査を受けられる事業所が限られ件数が多くなり業務が錯綜した。

月	4月	5月	6月	7月	8月
調査件数	8件	11件	13件	14件	12件

月	9月	10月	11月	12月	1月
調査件数	19件	11件	10件	8件	8件

月	2月	3月	年間合計
調査件数	8件	7件	129件

5 定員（105件）及び利用者数（目標値105件 100%）

月	4月	5月	6月	7月	8月
稼働率	105%	103%	110%	108%	106%

月	9月	10月	11月	12月	1月
稼働率	102%	103%	108%	109%	107%

月	2月	3月	年間平均
稼働率	105%	101%	105.6%

6 職員体制

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
管理者	1名	1名	常勤（兼務）
介護支援専門員	2名	2名	常勤（専任）
計	3名	3名	

7 基本的な利用者サービスの実施状況

介護保険サービスを円滑に受けられる様プラン作成・調整を図ることに勤めてきた。又プラン作成時必要とされるスキルアップを目指し事業所内での事例検討等を定期的に行つた。法改正により主任ケアマネを育成する年数が長期化している。今は事業活動収支差額がマイナスであるが人材育成し2年後には加算対象となり収支が成り立つようになる。

8 施設整備

特になし

9 資金概要

事業活動収入は16,647千円、事業活動支出は18,478千円で、前年度と比較し、収入増により収支差額が1,678千円増となつた。

婦人保護施設 望みの門学園

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門学園はキリストの教えに基づき、利用者の意思と人格を尊重し、利用者の立場に立った最適な福祉サービスを提供すると共に、個々が抱える生活上の課題の解決を図り、個々の自立支援計画に基づき事業を実施した。

2 重点実施事項

重点実施事項として以下のことに取り組んだ。

（1）利用者支援の充実（達成度80%）

個別ニーズに応じた支援計画を作成したうえで達成度を検証し支援の向上につなげた。DV被害者には関係機関から情報を共有し加害者からの追及を回避するよう努めた。母子面会は必要に応じて職員が同行し継続的な面会を実施した。法人他施設との非常勤契約および外勤による就労支援、ステップハウスを利用した生活支援に努めた。主日礼拝や聖書研究会を通し法人の精神であるキリスト教に触れ、その他季節に応じた行事を通して生活に潤いを持たせた。

（2）利用者の健康支援（達成度90%）

年2回の健康診断で利用者の健康状態を把握に努め、協力病院の定期受診等を通して利用者の件支援を実施した。

（3）利用者の心理支援（達成度70%）

心理担当職員による継続的な心理面接を実施すると共に、精神科受診を通して利用者の心理側面への支援に努めた。

（4）利用者の食事の充実（達成度90%）

利用者の身体データー、喫食状況を把握し個別の栄養状態を把握し、その日の食欲へも配慮する観点から、バイキング形式の食事サービスを新たに実施した。

3 新規実施事項

（1）2020（令和2）年度の新施設建設を目指し関係機関との連絡調整。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、千葉県における施設整備の科目で担当課である児童家庭課と協議をして、当初2019年度～2020年度の事業として内示を受けていたが、2021年6月までの工期に変更した。

（2）職員配置が可能であれば個別対応職員を配置し個々のケースに応じたきめ細やかな支援の強化。

個別対応職員の配置には至らなかった。

4 継続実施事項

2018（平成30）年度から引き続き、次の事業を実施した。

(1) 自立に向け資格取得・就労支援を促進し、ステップハウスを利用し円滑な地域移行のための支援。

(2) 退所者支援事業の運営。

(3) 利用者の心理的側面の支援を強化するための心理相談員の配置。

(4) 年2回開催の県女性サポートセンターと児童家庭課との定期連絡協議会の実施。

重点支援

就労支援《就労状況》

区分	人数	区分	人数	区分	人数
法人施設内実習	7	施設内実習	2	一般企業就労	0
法人施設内就労	3	施設内活動	2	民間家庭実習	0

自立支援

① 退所支援（民間アパート利用0名、帰宅予定0名、ステップハウス利用1名）

② 通院支援（自転車利用1名、バス利用5名）

活動支援

① ジョブコーチによる就労支援。 ②ステップハウス事業の利用。

5 定員及び利用者数

定員30名（現員17名）年 平均50.5%

月	4	5	6	7	8	9
利用率(%)	56.6	56.6	56.6	53.3	53.3	50.0
月	10	11	12	1	2	3
利用率(%)	46.6	46.6	46.6	46.6	46.6	46.6

6 職員体制（ ）内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1名	1名	常勤（専任）
事務員	1名	1名	常勤（専任）
看護士	1名	1名	常勤（専任）
栄養士	1名	1名	常勤（専任）
心理士	1名	1名	常勤（専任）
支援員	6名	6名	常勤（専任）

調理員	3名（1名）	3名（1名）	常勤（専任）、非常勤1名
計	14名（1名）	14名（1名）	

7 利用者サービスの実施状況

（1）年間行事

月	行 事	事 務 等
4	(5日)春季外出	(10~11日)のぞみ会新任職員研修会 (17日)女性サポートセンター連絡会議
5	(11日)富津地区環境整備	(13日)監事監査
6	(1日)望みの門バザー	(25日)女性サポートセンター職員見学 (20~21日)全国婦人保護施設等連絡協議会総会
7	(21日)下谷教会訪問	(4~5日)日本福祉施設士会全国セミナー
8	(8日)納涼会 (25日)西千葉教会聖歌隊訪問	(7日)健康診断
9	(16日)教会音楽祭	(12~13日)民営施設長会
10		(11日)全社協厚生事業団体常任委員会
11	(13~14日)社会見学旅行 (20日)OB会	(7~8日)全婦連指導員研修会 (21~22日)日本キリスト教児童福祉連盟
12	(14日)望みの門クリスマス会 (24日)学園クリスマス会 (24日)富津教会キャンドルサービス	(17日)ワックスがけ (19日)消防設備点検
1	(1日)元旦礼拝	(23日)県指導監査
2	(3日)節分の会	(6~7日)民営婦人保護施設長会議
3	(3日)ひな祭りの会	(4日)全国婦人保護施設等連絡協議会役員会

（2）日課表

時 間	内 容
6 : 30	起床・洗面・清掃
7 : 30	朝食
9 : 00	連絡会・ラジオ体操
9 : 15~11 : 45	活動
12 : 00	昼食

13:00～14:45	活動
15:00～18:00	ティータイム・自由時間
16:00～21:00	入浴・自由時間
18:00	夕食
18:30～22:00	自由時間
22:00	就寝

(3) 健康管理

① 利用者健康診断

月	健 康 管 理
8月	(7日)身長・体重・血圧・検尿・腹囲・血液一般・胸部X線間接撮影
11月	(18日)季節性インフルエンザワクチン接種
11月	(26日)身長・体重・血圧

* 日常支援：通院送迎、付き添い、体重・血圧・服薬管理

8 施設整備

望みの門学園及びデイサービス等建て替え工事を控えるため特に実施しなかった。

9 資金概要

事業活動収入は105,390千円、事業活動支出は86,867千円で、収支差額が18,522千円であった。収入は2018年度と比べ同水準であり、支出は△1,590千円となり収支差額は増加した。また、新施設建設の支払いのために積み立て資産98,500千円取崩し建設費用に充てた。本部より建設資金として17,126千円繰入を受けた。

宿泊所 東京望みの門

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

東京望みの門は、さまざまな事情により緊急保護を要する単身の女子及び母子を、福祉事務所などからの相談で受け入れ、キリストの教えに基づき宿泊所として援助を行った。杉並区と契約を結び、緊急保護委託者（単身の女子及び母子）の受け入れを行い、さらに退所者のニーズに応じて、継続してアフターケアを実施した。

2 重点実施事項

重点計画として以下のことに取り組んだ。

虐待やストレスフルな家庭環境で育ったため、コミュニケーション能力に問題が感じられる利用者が増加しているため、研修により職員の専門性を高め、よりよい援助につながった。

- (1) 清潔で安全な宿泊所の提供により、利用者の心身の健康が回復され、次の施設（更生施設やグループホーム、アパート）に移ることが出来た。（達成率90%）
- (2) 福祉事務所、婦人相談員、女性センター等の関係機関との連携を密にして利用者の安心につながった。（達成率85%）
- (3) 増加する退所者へのアフターケアの充実を図り、地域での生活を支援することが出来た。（達成率70%）
- (4) 犬や猫などのペット連れの方の受け入れを行い、他の保護先がないため喜ばれた。（達成率100%）

3 新規実施事項

特になし

4 継続実施事項

2018年（平成30）年度から引き続き次のことを実施した。

- (1) 清潔で安心して安全に暮らすことが出来る宿泊所を提供。
- (2) 栄養士の指導により、温かく栄養バランスの取れた食事を提供。
- (3) 利用者の希望に添って福祉、医療機関と連携して支援。
- (4) 疎遠になりがちな退所者への、定期的な訪問など具体的な援助。
- (5) さまざまな相談に電話などでの適切な援助。
- (6) 退寮生会の場でなされるピアカウンセリングの充実。
- (7) 職員の研修会への積極的参加。

5 定員及び利用者数

定員 5名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	1名	1名	1名	2名	1名	2名
	犬1匹	犬1匹				猫1匹

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2名	2名	2名	3名		1名	10名(30, 2%)
猫1匹		犬1匹	犬1匹		亀1匹	犬1匹と猫1匹

6 職員体制

職種	人員		
	現員	計画員数	
管理者	1名	1名	常勤
援助員	5名	5名	常勤2名、非常勤3名
調理員	3名	3名	非常勤
栄養士	1名	1名	非常勤
計	10名	10名	

7 基本的な利用者サービス方針の実施状況

(1) 年間実施行事

月	行事	事務等
4月	(27日) オープンハウス (食事・誕生日会)	お便り発送
5月	(18日) オープンハウス (食事・誕生日会)	お便り発送
6月	(15日) オープンハウス (食事・誕生日会)	お便り発送
7月	(20日) オープンハウス (食事・誕生日会)	お便り発送
8月	(24日) ロイヤルホスト食事会・誕生日会	お便り発送
9月	(21日) オープンハウス (食事会)	お便り発送
10月	(14日) オープンハウス (食事会・誕生日会)	お便り発送
11月	(9日) オープンハウス (食事会)	お便り発送
12月	(14日) オープンハウス (クリスマス祝会)	クリスマスプレゼント発送
1月	(3日) お節とお雑煮の会	お便り発送
2月	(8日) オープンハウス (ロイヤルホスト食事会・誕生日会)	お便り発送
3月	新コロナウイルス流行によりオープンハウス取りやめ	コロナウイルス感染注意事項お便り発送

(2) 日課表

時間	内容
7:00	朝食
12:00	昼食
16:00～22:00	入浴
18:00	夕食
23:00	消灯

8 施設整備

特になし

9 資金概要

事業活動収入は6,599千円であった。事業活動支出は6,564千円で、2018(平成30)年度に建物修繕があったので、例年と比べ△8,025千円となり、事業活動資金収支差額が+35千円となった。

児童自立援助ホーム マナの家

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

自立援助ホーム マナの家は、キリストの教えに基づき、就労自立を目指す児童の相談に応じ、その意志と人格を尊重し利用者の立場に立ち、安定した生活の場として、適切な援助を行った。

2 重点実施事項

重点実施事項として以下のことに取り組んだ。

児童福祉法の改正により、児童自立生活援助事業の対象者として、義務教育終了後に高等学校、中等教育学校、特別支援学校、短期大学、専修学校等に在学している学生及び生徒が、22歳まで利用できるようになった。さらに昨年5月より「社会的養護自立支援事業」(学生でなくても22歳まで自立援助ホームを利用できる)が施行された。満20歳を迎えた女子が自立するには、経済力、社会的適応力において、また、地域社会の受け入れ体制においても未だ不充分な状況である。そのため、「社会的養護自立支援事業」を受け入れ、20歳過ぎの女子の自立のために活用した。

- (1) 基本的生活習慣の習得に努めたが、居室や身の回りの片付けなど習得できないこともあった。(達成率70%)
- (2) 全員が毎月予算表、出納帳を作成し、金銭管理の習得が出来た。(達成率100%)
- (3) 就労の継続率が高く、社会的適応力が向上した。(達成率85%)
- (4) 「自立支援計画書」「自立支援計画書Ⅱ」「自立支援計画に対する課題」を活用し、(1)～(3)を支援出来た。(達成率90%)

3 新規実施事項

新規実施事項として以下のことに取り組んだ。

利用者の就労、就学を支えるためにマナの家の約束を見直し、門限の延長や携帯を持つ時間が増えたことで、利用者が生活しやすくなった。(達成率100%)

4 継続実施事項

2018（平成30）年度から引き続き次のことを実施した。

- (1) 清潔な居室・栄養士の指導による栄養バランスの取れた家庭的な食事の提供など衣食住生活全般の援助。
- (2) 児童福祉司と一緒に利用者の家族との面談を行ったり、職場の上司や、恋人などの人間関係の相談にのった。
- (3) 保護者として、就学継続や転校の相談のため学校に赴いた。
- (4) 退寮後の地域社会における安定した生活継続のため、来所・給食・訪問・受診同行などアフターケアを行った。

- (5) 緊急保護の必要な退寮生を宿泊、保護し、再出発に向けて援助した。
 (6) 家庭裁判所から委託される女子児童の数の激減により補導受託はなかった。
 (7) 母となった退寮生とそのこどもは、毎月の食事会・外食会に来所し、見守りとケアを継続した。

5 定員及び利用者数 定員 6名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	83%	83%	83%	100%	83%	83%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
83%	67%	83%	67%	67%	100%	82%

6 職員体制

職種	人員		
	現員	計画員数	
管理者	1名	1名	常勤
援助員	5名	5名	常勤2名非常勤3名
調理員	3名	3名	非常勤
栄養士	1名	1名	非常勤
計	10名	10名	

7 基本的な利用者

サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

月	行事	事務等予定
4月	(7日) 外食とカラオケ	
5月		(10日) 夜間避難訓練
6月	(15日) カラオケ外食	
7月		(31日) 庭木手入れ
9月		(1日) 防災訓練
10月	(5日) カラオケ外食 (18日) 外食会	(20日、26日) バザー
11月	(30日) ファッションイベント 参加・外食会・イルミネーション 見学	(16日) ILBS バザー
12月	(26日) クリスマス食事会	(14日) 庭木手入れ
1月	(29日) 誕生日の外食会	
2月	(1日) 誕生日の外食会	(1日) 防災訓練、夜間避難訓練

(2) 日課表

時間	
7：00 日曜日は8：00	朝食
出社・就労・登校	
12：00～13：00	昼食
16：00～22：30	入浴
18：00	夕食
22：00	門限
23：00	消灯

(3) 健康管理

月	内容
毎月	栄養士による栄養指導
10月～12月	インフルエンザ予防接種

8 施設整備

計画はしていなかったが、ガス配管工事に339千円。

9 資金概要

事業活動収入は31,201千円、事業活動支出は20,379千円で、事業活動収入は3,403千円の増額、事業活動支出は例年と同水準となった。

就労継続支援B型事業 望みの門新生舎

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門新生舎は、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」（障害者総合支援法）のもと、キリストの教えに基づき利用者の自立と社会経済活動への参加を促進するため利用者一人ひとりに必要な支援及びサービスを提供するとともに利用者の充実した社会生活の保障を基本方針とし事業を実施した。今年度は9月に台風による1週間の休業があり、3月には新型コロナウィルス感染拡大によって2週間の臨時休業を必要とするなど、通所事業所の災害・感染症に対する弱点や困難性が現れる結果となった。休業による出勤率の低下は事業収入に大きく影響することとなり今後も災害・感染症への臨機な対応・対策が必要とされる。

2 重点実施事項

重点実施事項として以下のことに取り組んだ。

- (1) 新規利用者の獲得については、新規利用者は1名、退所者はなかった。定員40名のところ登録者42名で年度を終えた。（達成度100%）
- (2) 利用者の利用率向上については、出勤率90%を目標としたが、災害や感染症拡大により年間出勤率は88.2%と目標値を下回った。（達成度98%）
- (3) 個別支援計画については、4月に個別支援計画を作成し5月に利用者・家族と個別面談を実施した。モニタリングは10月・3月に実施し適宜支援計画の見直しに努めた。（達成度100%）
- (4) 工賃向上計画に基づいて目標工賃額5,429,000円に対し、5,541,000円と目標額を達成した。（達成度100%）

3 新規実施事項

花卉栽培事業の研究・開発を予定したが隣接地への施設建設準備により圃場の縮小があったことから花卉栽培に代わる作業種を検討した。（達成度50%）

4 継続実施事項

2018（平成30）年度から引き続き下記の事項を実施した。

(1) 就労支援事業の充実

「生きる力」「暮らす力」「働く力」を育てることを主眼に置き、職業準備性を高め、基本的労働習慣の確立を図り、就労への意識高揚に努めた。事業運営においては、各就労支援部門が企業経営センスを持って効率的な運営を図り、品質の向上・計画的生産を行い、関係業者及び消費者の信頼確保に努めた。

これまでの店頭販売や各種作品展での売り上げが低迷するなか、JA君津味楽団さ

だもと店へのパン、クッキーの委託販売に力を入れた。また、引き続きは一とふるメッセ千葉寺店・県庁店ともにクッキーの売上げが順調に推移した。

2019年度 JA 君津味楽団さだもと店総売上 6,130,462円と伸びを見せた。各種作品展やイベントに参加し新たな販売ルートを開拓した。

①のぞみベーカリーではパン・クッキーの製造販売を通じ、その中で個々の課題を明確にし就労に向けて職業準備性を高め、基本的労働習慣の確立を目指し支援にあたった。販路の拡大によって日々の生産量も増加し納品や配達などは他の作業部門の協力を得て行った。

②エコクラブでは、隣接地への施設建設により圃場の縮小が予定され、野菜・花卉栽培を大幅に縮小し稻作事業・リサイクル作業・環境整備を主軸とした作業を展開した。利用者については日々の固定された作業活動とはならず安定した作業提供・利用者支援という点では職員の習熟や研鑽に課題が残ることとなった。

稻作事業は12年目を迎える事業として定着している。作付け品種をコシヒカリとし昨年度と同様に約20,000m²（2町歩）を作付けした。収量は玄米で6.3トン（105俵）の収量となった。販路としては法人各施設給食用米飯として3月末まで提供することができた。

③おりひめ俱楽部では、織機を使った製品を中心に、使用する材料の仕分けや小物の製作、季節に合わせた製品作りに取り組み、販売実績の高い商品はさらに品質を高められるよう工夫した。紙漉作業を定型的な作業として位置づけ、法人職員用カードとして納品した。各作業部門の体調不良者の受け皿として機能した。

（2）生活支援の充実

その人がその人らしく地域で暮らすことが出来るよう、基本的生活習慣・IADL等の確立を支援の重点に置き、利用者の自立した地域生活を想定し、社会生活技能の習得に向けて支援にあたった。

①利用者のニーズに応じて柔軟な送迎サービスの体制で臨み利用率向上に努めた。

②挨拶の励行、場に合った服装、所持品の管理、食事マナー等の習得に努めた。

③手洗い・うがい・歯みがき等を励行し健康管理を促した。利用者の加齢による身体能力・身辺処理能力の低下が伺え、健康管理など生活支援が増加傾向にある。

特に台風災害や感染症による休業期間中の生活状況などは定期的に確認した。

④情緒不安定や家庭状況により出勤出来ないケースについては、本人への動機付けや電話相談・来所相談・送迎対応など家庭と連携して支援にあたった。また、精神科受診に同席し、医師・家庭と対応方法について協議を重ねるなど継続して取り組んだ。また、相談支援事業所と連携し新たな生活の場など展開した。

⑤原則的に第2・第4土曜日を稼働日とし、就労支援活動のほかに利用者の要望に応じ、レクリエーションを通して日常生活支援・余暇活動支援・その他の社会活動支援にあたった。

5 定員及び利用者数

定員 40名 現員 42名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	94.1%	94.7%	90.2%	88.9%	91.0%	76.6%

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
稼働率	92.3%	95.2%	92.3%	92.0%	93.8%	58.8%	88.2%

6 職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1	1	常勤(専任)
サービス管理責任者	1	1	常勤(専任)
生活支援員	1	1	常勤(専任)
職業指導員	5 (1)	5 (1)	常勤(専任)、非常勤
職業指導員(兼)調理員	1	1	常勤(兼務)
目標工賃達成指導員	1	1	常勤(専任)
事務員	1	1	常勤(専任)
その他	1 (1)	1 (1)	非常勤
計	12	12	

7 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

月	行 事	事務等
4月	余暇活動（13）新生舎家族会総会（20） 田植え（25）	機関誌発行（20）
5月	家族・利用者面談（13） 苺狩り（18）	機関誌発行（20） 個別支援計画書作成
6月	望みの門バザー（1）	機関誌発行（20）
7月	余暇活動（27）	機関誌発行（20）
8月	サマーキャンプ（9～10）	機関誌発行（20）
9月	稲刈り（3）	機関誌発行（20）
10月	地域交流スポーツ大会（6） 創立20周年記念感謝祭（26）	機関誌発行（22） 個別支援計画モニタリング
11月	感謝祭（3）社会学習旅行（30）	機関誌発行（20）
12月	合同クリスマス会（14）	機関誌発行（20）
1月	新年会（18）	機関誌発行（20）
2月	手をつなぐ作品展（21～23）	機関誌発行（20）
3月	感染症拡大により中止	機関誌発行（20） 個別支援計画モニタリング
第3水曜日／月 誕生会		
第2・第4土曜日 レクリエーションを通して日常生活支援、余暇活動支援、その他の社会活動支援に取り組んだ。		

(2) 日課表

時 間	内 容
7 : 5 5	送迎車（君津方面・大貫方面）新生舎発
8 : 0 0	送迎車大貫駅発
8 : 3 0	送迎車君津駅発・職員朝礼
8 : 3 0	送迎車（大貫方面）新生舎到着
8 : 5 5	送迎車（君津方面）新生舎到着
9 : 0 0	着替え
9 : 1 5	朝のミーティング
9 : 3 0	午前の作業開始
1 0 : 3 0	休憩（水分補給）
1 1 : 5 5	午前の作業終了
1 2 : 0 0	昼食・休憩
1 3 : 0 0	午後の作業開始
1 4 : 0 0	休憩（水分補給）
1 4 : 4 5	午後の作業終了 清掃 着替え
1 5 : 2 0	帰りのミーティング
1 5 : 2 5	送迎車（君津方面・大貫方面）新生舎発
1 5 : 4 0	送迎車大貫駅着
1 6 : 0 0	送迎車君津駅着
1 6 : 0 0	送迎車（大貫方面）新生舎着
1 6 : 4 5	送迎車（君津方面）新生舎着

(3) 健康管理

日々の健康観察、毎月の体重測定、年1回の定期健康診断等により利用者的心身の状況を適切に把握し支援にあたった。インフルエンザ・ノロウィルス等の感染症予防対策に留意し取り組んだ。また、加齢に伴う健康状態の把握などにも留意した。

特に新型コロナウィルスの発生・感染拡大に対しては厳重な警戒で対応した。健康・安全のため2週間の休業とその間の生活状況の確認を実施した。

月	健康管理実施状況	
	利 用 者	職 員
4月	体重測定 (26)	
5月	体重測定 (24)	
6月	体重測定 (28)	
7月	体重測定 (26)	
8月	体重測定 (7) 健康診断 (7. 8)	健康診断 (7. 8)
9月	体重測定 (27) 医師による診察 (25)	医師による診察 (25)
10月	体重測定 (25)	
11月	インフルエンザ予防接種 (18) 体重測定 (22)	インフルエンザ予防接種 (18)
12月	体重測定 (26)	
1月	体重測定 (24)	
2月	体重測定 (28)	
3月	休業による生活状況確認	

8 施設整備

ベーカリー工房の拡充については事業所の在り方を含めた検討を必要とすることから次年度以降から工賃体系や施設機能などを含めた検討を行うこととした。

9 資金概要

事業活動収入は95,570千円で、例年と比べ889千円の増収となった。事業活動支出は86,456千円で、前年度と比べ1,320千円の減額となった。当期収支差額は9,114千円であり、前年度と比べ2,210千円の増収となった。今期は台風や感染症による利用率の低下から本体報酬の減収があったものの就労支援事業の増収によって例年同水準を維持できたが、今後も感染拡大は充分に懸念され利用率の維持と対応・対策・生活支援に留意して取り組みたい。また、新規利用者の確保を進めたい。

共同生活援助事業（介護サービス包括型）グレースホーム

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

グレースホームは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」（障害者総合支援法）のもと障害福祉サービスの共同生活援助事業所として、キリストの教えに基づき利用者が地域において共同して自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう共同生活住居において入浴・排泄及び食事の介護、相談その他の日常生活上の支援または援助を行うことを基本方針として事業を実施した。

2 重点実施事項

現在20名の利用者が4つの共同生活住居で地域生活を送っており、支援にあたっては世話人同士が共通認識を持ち互いに連携を密にして質の高い生活が提供できるよう支援した。また、「日中活動の場」との連絡調整、健康管理体制の強化、安全管理体制の強化を重視して取り組んだ。（全体達成度90%）

（1）利用者定員100%にする（達成度100%）

①相談支援事業所との連携を密に行い情報を共有、定員満床へと繋いだ

（2）個別支援計画に基づいた支援（達成度85%）

①個々の計画に対し必要に応じて利用者との話し合いを行い会議等にて支援の方向性の話し合いを行い支援に繋げた。

②高齢な利用者に対し計画・支援を行う中でグレースホームでの生活が継続できるかを踏まえ検討した。

③外部研修に積極的に参加、質の向上に努めた。特に非常勤職員に関しては直接業務に関わる研修に希望者ではあるが業務として参加、報告にて全体で周知できるようにした。

（3）「日中活動の場」との連絡調整（達成度90%）

君津圏域グループホーム連絡協議会への積極的な参加と相談支援事業所との連携の強化、協議会の参加を行い情報の共有を行った。また、日中活動の場である施設・事業所との情報共有を隨時行った。

（4）住みやすい環境づくり（達成度80%）

①健康管理体制の強化

日々の観察と健康管理室との連携を密にとり早期対応に努めた。

②安全管理体制の強化

月1度各ホームの点検を実施。必要に応じて修繕を行った。

第1・第4グレースホームの住居修繕に関しては事務局に依頼した。

3 新規実施事項

（1）定員100%にする（年会累計99.2%・達成度100%）

手続き上4月からの満床とはならず6月に設立以来初めて満床となる。

（2）第2グレースホーム移転計画（引越達成として100%・達成度（-））

新学園建設計画において第2グレースホームでの生活に危険が伴う可能性がある為、

2020年度に一時的に引っ越しをする計画を立てる予定であった。度々事務局に伺いを立てていたが10月に工事に影響はないとの事で計画をとりやめた。しかし、2020年3月に入り第2グレースホームを建設会社の事務所として使用するため3月30日に引越を実施した。

4 継続実施事項

(1) 支援体制

①支援として職員は月1回の世話人会議や職員連絡ノートを活用し情報を共有、連絡を密にとりサービスの質の向上を図った。またスキル向上の為、主に現場で活用できる研修等に参加した。

②個別支援計画を基に本人と具体的な支援計画を策定し個別の支援目標や具体的な支援方法を確認し支援にあたった。また、必要に応じ常勤会議にて議題に挙げできるだけ個人の希望に添えるよう検討した。

(2) 「日中活動の場」との連絡調整

利用者の日中活動は多岐にわたっており、職場・地域活動支援センター・就労継続支援事業所等の関係事業所と密接な連絡・連携を図り、利用者が安心して地域生活を送ることができるよう支援に努めた。

(3) 保健・医療体制

①利用者の傾向として、慢性疾患・精神科薬服用など健康面での配慮を必要としている者が大半である。また、利用者の加齢化にともない、健康状況の的確な把握がより一層重要になってきている。体調の変化など見過ごすことなく日々の健康管理にあたり、地域生活が継続できるよう支援にあたった。

②服薬に関して誤薬・服薬忘れは無かったが、セット等に関し間違いが発覚。ヒヤリハットにて都度対策・周知を行った。

(4) 余暇活動

利用者本人の希望や要望に応じて土曜日・日曜日・祝日などに外出等を計画した。また、グレースホーム全体での旅行や花見・外食会などを企画し、各共同生活住居間の連携を深めると共に、よりよい人間関係の構築に向けて支援にあたった。

(5) 家族との連携

法人や関係事業所などの会報・行事等の連絡を送付し、行事については、できる限り参加を要請し家族との関係が希薄にならないよう努めた。また、事故や病気等の場合も連絡を入れることとし、必要に応じ協力を依頼した。

(6) 防災関係

災害時に迅速な対応ができるよう普段から所在・要援護の状況等の把握と訓練を通して職員・利用者の防災意識の高揚に努めた。

①緊急連絡網の作成と連絡網訓練（1回）の実施

②避難訓練の実施（火災想定年間4回・地震津波想定1回）

③日常の火気取扱いについて十分留意し、事故防止に努めた。

④各共同生活住居の消化器の定期点検の実施

5 定員及び利用者数

定員20名 現員20名 (2020年3月31日現在)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	19	19	20	20	20	20

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用者数	20	20	20	20	20	20	99.2%

6 職員体制

(2019年3月31日現在)

夜間従事者（宿直職員）として2名配置

職種	人員()内非常勤再掲		備考
	現員	計画員数	
施設長 (兼)管理者・世話人 ・生活支援員	1		常勤(専任)
サービス管理責任者 (兼)世話人	1		常勤(専任)
世話人・生活支援員	10(6)	11(7)	常勤(専任) 非常勤(専任)
計	10(6)	11(7)	常勤(兼務)2名 非常勤退職1名

7 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

4月	(27,29)グループ外出 (28~)GW帰省	アセスメントシート作成 新規2名利用開始 新規者担当者会議
5月	(~6)GW帰省 (3,18,19)グループ外出 (4)バーベキュー昼食会	個別支援計画作成 新規利用者家族面談 クラッセン相談支援事業所モニタリング
6月	(1)望みの門バザー (6,9,11,12)グループ外出 (21)避難訓練	保護者面談 家庭訪問 新規1名利用開始
7月	(6~7)親睦一泊旅行 (11)避難訓練 (15,27)グループ外出	君津市支援区分認定調査
8月	(7,8)健康診断 (11~15)盆帰省 (16,17)グループ外出 (14)帰省残留者食事会	三者面談
9月	(17)津波想定避難訓練 (1,21,23)グループ外出	成年後見弁護士面談1名

	(25,30)健康診断	
10月	(22,26)グループ外出	個別支援計画モニタリング 君津市支援区分認定調査
11月	(2)かずさの里感謝祭 (9)4市スポーツ大会 (13,15,17,19)グループ外出 (18,25)予防接種 (20)望みの門学園OB会 (30)連携ボーリング大会	モニタリング
12月	(14)合同クリスマス会,忘年会 (9)避難訓練 (21,28)グループ外出 (22)愛餐会,君津市クリスマスコンサート (28~)年末帰省	富津市支援会議
1月	(2)残留者お楽しみ会 (~3)年始帰省 (2~3)帰省残留者一泊旅行 (18,25,26)グループ外出	
2月	(6)避難訓練 (11,16) グループ外出	同行援助契約 1名
3月	グループ外出中止 (29)花見会(室内) 第2引越同意書受取	個別支援計画モニタリング 家賃補助申請(富津・木更津・袖ヶ浦・市原・いすみ・匝瑳・目黒・柏・松戸・千葉) 木更津市認定調査 第2グレースホーム引越
備考 *誕生会(各グレースホーム対応) *利用者・職員検便(指定日対応)		

(2) 日課表

時間	平日の流れ	休日の流れ
7:30	離床 血圧測定・身支度・洗面	離床 血圧測定・身支度・洗面
8:00	朝食(服薬)・歯磨き 排泄	朝食(服薬)・歯磨き 排泄

8 : 30	日中活動へ出発 *就労継続支援B型事業所 *地域活動支援センター *就労 通院	自室掃除
10 : 00		余暇活動 ・外出・散歩・礼拝 自由時間
12 : 00		昼食(服薬)・歯磨き 自由時間
14 : 00		入浴
15 : 00		おやつ
15 : 30	日中活動より帰宅 おやつ 入浴・洗濯 日中活動準備 自由時間	自由時間
18 : 15	夕食(服薬) 歯磨き 自由時間	夕食(服薬) 歯磨き 自由時間
20 : 30	就寝前服薬	就寝前服薬
21 : 00	就寝準備 消灯	就寝準備 消灯

(3) 健康管理

月	健康管理
4月	(1,2,5,18,23)東病院 (1) 帝京大学ちば総合医療センター定期通院 (3,4,10,17,22,24) 君津中央病院定期通院
5月	(15) 木更津病院定期通院 (2,8,17,24) 君津中央病院定期通院 (10,31)東病院
6月	(12) 木更津病院定期通院 (5,6,21,24)東病院 (14) 君津中央病院定期通院 (18) 帝京大学ちば総合医療センター定期通院
7月	(10) 木更津病院定期通院 (23,29,30) 東病院定期通院 (5) 君津中央病院定期通院 (8)富津市特定健診

8月	(7,8)法人健康診断 (7) 帝京大学ちば総合医療センター定期通院 (1,8,22) 東病院定期通院
9月	(25,30)法人健康診断 (4) 木更津病院定期通院 (2,19)東病院 (18,25) 君津中央病院定期通院
10月	(2,30) 木更津病院定期通院 (17,28) 東病院定期通院
11月	(18,25)法人インフルエンザ予防接種 (13,27) 木更津病院定期通院 (27) 君津中央病院定期通院(夜間緊急通院)
12月	(5,12,17) 東病院定期通院 (16,27) 木更津病院定期通院
1月	(14,29) 東病院定期通院 (8,22) 木更津病院定期通院
2月	(5) 帝京大学ちば総合医療センター定期通院 (19,26) 君津中央病院定期通院 (19) 木更津病院定期通院 (10) 東病院定期通院
3月	(6,19) 東病院定期通院 (30) 帝京大学ちば総合医療センター定期通院 (18,25) 木更津病院定期通院
備考	日常支援：その他通院付添い、血压管理、服薬管理 5月31日～8月2日東病院 1名骨折にて入院 11月27日～12月16日君津中央病院 S状結腸軸捻転にて入院

8 施設整備

環境づくりとして隨時細かい整備を実施。
3月第2グレースホーム引越の為住宅206号室・301号室の整備依頼。206号室浴室・外階段の手すり等については2020年度に実施予定。

9 資金概要

事業活動収入は40,922千円、事業活動支出は37,149千円、例年度に比べ満床により収入3,052千円増。支出はほぼ同水準であったため、事業収支差額が2,716千円増しとなった。

地域活動支援センターⅡ型事業望みの門ヨカデイサービスセンター 2019(令和元)年度事業報告

1 基本方針

地域活動支援センターⅡ型としての「望みの門ヨカデイサービスセンター」は、障害者総合支援法のもと、キリストの教えに基づき、地域において雇用・就労の困難な住宅障害者に対し、創作活動の機会の提供や社会との交流促進等、機能訓練・社会適応訓練を行うことを目的として運営した。

2 重点実施事項

重点実施事項として以下のことに取り組んだ。

利用者の自立促進、生活の質の向上および生きがいを高めるため、利用者の状況・能力およびその置かれている環境に応じ、入浴・食事・排泄等日常生活上の支援、創作活動の機会の提供、機能訓練、社会適応訓練、レクリエーション等を通して身体能力の維持・向上するためのサービスの提供に努めた。(達成度70%)

3 新規実施事項

特になし

4 繼続実施事項

2018(平成30)年度から引き続き、次の事業を実施した。

(1) 食事

楽しい食事場面となるよう雰囲気づくりを行うとともに、利用者個々にあわせた食事量の調整を行った。刻み食の提供についても個々の咀嚼の状況に合わせた大きさに刻み誤嚥防止に努めた。

(2) 入浴

入浴時間を午前中に設定し、ゆとりのある入浴支援を心がけた。2019年度は手術を行った利用者もあり状態に合わせた入浴を行うなど細かく配慮した。また、体調によって入浴できない利用者については、清拭などの対応を図った。

(3) 排泄

排泄において介助を要する利用者には、排泄の間隔を把握しトイレ誘導を行うなどの支援を行った。また、洗浄機能付き便座を利用して清潔に保つことができるように配慮した。

(4) 対人関係

支援者が関係調整を行い、利用者が相互に良好な関係が保てるよう配慮した。

(5) 創作活動

個々が興味をもって取り組める折り紙や切り絵・貼り絵、ビーズ手芸・学習ドリルなどの活動の材料を提供し、楽しく活動に参加できるよう取り組んだ。

(6) 社会適応訓練

外出ではお花見や紅葉狩りなど季節の行事を楽しみ、外食では公共のマナーを学ぶ機会を提供した。また、昼食やおやつ作りでは、前日に買い物へ出かけ食材を選び購入することで調理が苦手な方も積極的に参加できる場面を設けた。調理の場面では共同作業を行い、社会性を身につけながら楽しく参加できるよう努めた。

(7) レクリエーション

利用者が楽しんで参加できるよう夏祭りやクリスマス会・新年会などを企画し実施した。

(8) 機能訓練

毎日ラジオ体操や菜の花体操・ストレッチなどを行い、散歩ができない日には、室内ウォーキング・踏み台昇降などを取り入れ身体機能の低下を防止した。また、食事の前には嚥下体操を行い誤嚥防止に努めた。

5 定員及び利用者数

定員 15 名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率%	53.3	53.3	46.6	46.6	46.6	46.6

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
稼働率%	46.6	46.6	46.6	46.6	46.6	46.6	47.7

6 職員体制

() 内非常勤再掲

職 種	人 員		備 考
	現員	計画員数	
管理者(兼)指導員	1	1	常勤(兼務)
指導員	1	1	
介護員	1	1	常勤
計	3	3	

7 利用者サービスの実施状況

(1) 年間行事

月	行事内容	事務棟内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・花見（4）・外食会（19） ・買い物外出（2, 9） ・調理実習（5）・おやつ作り（11） 	市町村委託契約締結 機関誌発行
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・いちご狩り（6）・外食会（27） ・買い物外出（16, 22） ・調理実習（17）・おやつ作り（23） 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・外食会（7） ・買い物外出（17, 27）・調理実習（18） ・おやつ作り（誕生会）（28） 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・カラオケ（18）・避難訓練（24） ・買い物外出（11, 22） ・調理実習（12）・おやつ作り（24） 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・外食会（26）・納涼祭（誕生会）（24） ・買い物外出（23, 29）・おやつ作り（30） 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ作り（19）・買い物外出（18, 25） ・調理実習（26） 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・外食会（28） ・買い物外出（17, 24）・調理実習（18） ・おやつ作り（25） 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・かずさの里感謝祭（2） ・買い物外出（12, 28）・調理実習（13） ・おやつ作り（誕生会）（29）・紅葉狩り（18） 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・合同クリスマス会（14） ・買い物外出（12, 28）・誕生会（12） ・ヨカクリスマス会（24）・おやつ作り（17） 	機関誌発行
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年会（4）・買い物外出（4, 23） ・調理実習（10）・おやつ作り（24） 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・節分（3）・誕生会（18） ・買い物外出（17, 27）・調理実習（28） ・外食会（13） 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・お楽しみ会（28）・調理実習（20） ・おやつ作り（11） 	

(2) 日課表

時間	一日の流れ	
8：30		職員出勤 打ち合わせ 掃除・お茶・入浴準備
9：10	来所・うがい・手洗い バイタルチェック (体温・血圧・脈拍)	利用者受け入れ 連絡帳・服薬確認 利用者健康チェック
9：40	入浴 創作活動・音楽・DVD鑑賞	入浴介助・ドライヤー 塗り薬塗布・活動支援
11：35	手洗い 嚥下体操	手洗い確認 配膳
12：00	昼食・服薬・片付け	食事介助・服薬確認 型付け・歯磨き介助
13：30	機能訓練(ストレッチ)・散歩 踏み台昇降・創作活動	活動支援
15：00	手洗い・おやつ ラジオ体操・菜の花体操	おやつ・飲み物準備 連絡帳記入
16：00	帰宅	帰宅付き添い 掃除 業務日誌・提供表記入
17：30		退勤

(3) 健康管理

月	内 容
8月	健康診断(7)
11月	季節性インフルエンザ予防接種(18)

※日常支援：血圧管理、体温管理、服薬管理

6 施設整備

なし

7 資金概要

事業活動収入は10,614千円、事業活動支出は9,958千円で、2018年度と比べ同水準であった。

指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業 望みの門ベテル 2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門ベテルは、障害者総合支援法のもと、キリストの教えに基づき利用者がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう必要な相談支援サービスの提供を通じて、利用者の充実した社会生活の保障を基本方針として事業運営を行った。事業の実施にあたっては、利用者の意志及び人格を尊重し常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めるとともに利用者の心身の状況、その置かれている環境に応じて利用者の選択に基づき福祉サービス等が総合的かつ効率的に提供できるよう取り組んだ。

2 重点実施事項

2018年度から再開した法人外部の相談支援により地域の障害福祉ニーズに対して利用者の意思および人格を尊重し常に利用者の立場に立った相談支援業務に努めた。法人内の施設・事業所との連携はもとより、各相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、障害者総合支援協議会等との連携体制の確立に努めた。特に定期的に参加した富津市相談支援事業所連絡会では、ケース研究や情報交換を行い事業所間相互の連携を図った。

（1）基本相談支援

障害者等からの相談に応じ障害福祉サービスの情報提供と実際に提供する事業所との連絡調整を行った。（新規相談件数8件 達成度100%）

（2）指定サービス利用支援

支給決定または支給決定の変更前に利用者との面接を行い、利用者・家族の希望や状況等を把握しサービス等利用計画案を作成した。（計画作成件数24件 達成度60%）

（3）指定継続サービス利用支援

市町村が支給決定の際に通知するモニタリング期間毎に利用者が継続して障害福祉サービスを利用できるようサービスの利用状況を検証した。見直しの結果に基づきサービス提供事業者との連絡調整や支給決定に係わる申請の勧奨を行った。（モニタリング件数139件 達成度100%）

3 新規実施事項

特になし

4 継続実施事項

2018（平成30）年度から引き続き、下記の事項を実施した。

（1）サービス利用支援

利用者等との面接やサービス提供事業者との連絡調整を行い、サービス等利用計画

を作成した。当初の登録者は60名であったが外部からの相談を再開したことにより3月には登録者が68名に増加し、サービス利用計画・モニタリングの作成件数が増加した。

①サービス等利用計画作成

- ・サービス内容等に関する情報提供
- ・アセスメント
- ・サービス等利用計画案の作成
- ・サービス等利用計画案の説明・交付
- ・サービス担当者会議の開催
- ・利用者等への説明
- ・サービス等利用計画の交付

(2) 継続サービス利用支援

①モニタリング

②サービス等利用計画の変更

③入所施設等への紹介又は地域生活への移行に関する情報提供の援助

グループホームへの入居3件。グループホーム短期入所2件。特別支援学校卒業後の進路策定3件と相談内容も多岐に渡った。

5 定員及び利用者数

(1) 指定利用サービス支援（利用計画作成） 24件（2018年度45件）

(2) 指定継続サービス支援（モニタリング） 139件（2018年度98件）

6 職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
管理者(兼) 相談支援専門員	1名	1名	常勤(兼務)
計	1名	1名	

7 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施事項

	計画・モニタリング作成数		備考
	計画	モニタリング	
4	3	8	相談支援事業所連絡会(18)
5	2	9	相談支援事業所連絡会(16)
6	3	8	相談支援事業所連絡会(20)
7	1	9	相談支援事業所連絡会(18)

8	1	17	相談支援事業所連絡会（22）
9	1	12	相談支援事業所連絡会（19）
10	4	14	相談支援事業所連絡会（16）
11	1	14	相談支援事業所連絡会（21）
12	1	9	相談支援事業所連絡会（19）
1	0	10	君津特別支援学校福祉機関相談会（7）
2	7	18	相談支援事業所連絡会（20）
3	0	12	相談支援事業所連絡会（19）

8 施設整備

特になし

9 資金概要

事業活動収入は2,251円となり外部計画相談を再開し担当するケース数が増えたことで着実に事業活動収入は増えているが報酬単価の改定による影響は続いている。事業活動支出は7,980千円と例年度と比べ概ね横ばいではあるが大幅な支出超過となっており、サービス区分間繰入金で対応しているのが実情である。

今後も新規利用者の獲得や新たな加算等を検討しながら対応していきたい。

児童養護施設 望みの門かずさの里

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門かずさの里は、キリストの教えに基づき、子どもの安心・安定した生活、養育の確保に努めた。その中、「都道府県社会的養育推進計画」の策定作業に向け、千葉県担当課と情報交換、協議を進めた。これまでの小規模化（小規模G C 5カ所指定）の実践を踏まえ、当施設の今後の運営、取り組みのあり方を模索・検討した。なお、直接処遇職員の安定確保の課題にて、一年を通じて入所調整を図り運営に当たった。

人材の充足確保は、最低配置基準数の確保に留まり厳しい現状が続いた。

【児童養護施設としての実践課題】

（1）子どもの人権擁護と利益を守る～職員の倫理・援助スキルの向上

- ①子どもの気持・主張を聴く。
- ②一人ひとりが思い・意志を表明できる機会をつくり、自己決定を尊重する。
- ③一人ひとりの個性・成長に応じて諭す。
- ④一人ひとりが生活を創り営むことが実感できるように～子ども会議等の充実。

（2）養育・自立支援

- ①個別自立支援計画に基づいた適切な支援～個別的な対応の充実
- ②基本的な生活習慣の確立～日常行動の自律性を高める
- ③年齢・成長に応じた社会性・マナーの習得
- ④豊かな食生活の確立～食育環境の充実
- ⑤知的障がい等を抱えた子どもへの専門的養育支援

（3）支援体制と職員の連携

- ①職員全体で一人ひとりの子どもたちを養育支援することを基本とした上で、ユニット毎の職員主担当者を定め支援にあたる。（非固定制）
小規模G Cの管理宿直等職員（非常勤）は、原則として日中活動支援のみとする。
- ②各会議等（職員会議及び、調理部会・給食運営会議、各ミーティング等）を通して、養育支援のあり方、職員個々の役割など共通理解を図る。

（4）関係機関との連携

- ①児童相談所等と連絡・連携を密にする。
- ②幼稚園・学校関係（小・中・高・他）と日常的な連携を密にする。また定期的な連絡会議を行う。

（5）家族・保護者等との関係

- ①児童相談所等との連携をもとに、連絡・面会・帰宅等を促進する。
- ②配置した家庭支援専門相談員による家族支援に努める。
- ③里親ふれあい家族の利用を検討実施する。（個別状況に応じ、夏季・冬季での宿泊）

（6）地域等との関係

- ①子ども、大人（職員）共に地域住民として、積極的に地域活動に参加する。
- ②感謝祭等をもとに、里からの係わりを進める。
- ③個々のボランティア等との連携を深め活用する。

2 重点実施事項

知的発達症等を抱える子どもの、より適正かつ専門的な養育支援、支える支援体制のあり方を模索しながら取り組んだ。養育推進計画策定での高機能化は、「ケアニーズが非常に高い子どもの養育」と示されたが、当施設の取り組みも準ずる実践として捉え研究を重ねた。入所調整を図る中、下記事項を重点事項として取り組んだ。

(1) ユニットの充実(小規模グループケア)

新入所の調整を図る中、「幼児(5名)、縦割り男児学童(5~6名)、縦割り女児学童(5~6名)等の5グループ編成で実施した。知的発達症等を抱えた子どもへのより良い支援体制を検証しつつ、少人数で生活リズムのより安定と生活力の向上に努めた。子ども同士、職員とのより個別的な関わり合いの中で、愛着形成を含めより健全な育成となる環境を整えた。同時に、より有効的な職員体制を隨時検討し、施設運営全体の課題として様々な取り組みを試みた。(達成度70%)

(2) 義務教育特別支援学級在籍児童への対応と連携及び特別支援学校高等部卒業後の進路の検討・就労支援の検討

小・中学校特別支援学級の在籍児童は9名(小・中児童20名)であり、個々に応じた学校との日常的な連携を強め情緒の安定等に努めた。特別支援学校高等部の在籍児童は2名(2019年4月1日より)であったが、2018年度高等部3名の卒業生への対応に苦慮したことを踏まえ、個々に応じた進路の策定を早期より検討した。障害者総合支援法等でのサービス利用の理解を深め、関係資源(知的障害者福祉関係)との連携、就労・生活の場の確保に向けた支援業務の充実を図った。(達成度70%)

3 新規実施事項

特になし

4 継続実施事項

(1) 小学校・中学校との定期連絡会 [学期毎に1回]

子ども一人ひとりの個性、長短所・課題等を確認し合い、学校生活と里での養育が一対となり、個別支援の充実に繋がるよう努めた。また、日常の連絡連携のあり方を確認した。特別支援学級への在籍児童の増加、情緒面に課題を抱える子どもへの対応など、連絡会の重要性がより高くなっている。

(2) 心理療法の実施

心理療法担当職員により、個々の子どもの心理状況、ストレス等の把握をもとに、年少児を中心に心理療法を行った。また職員会議等にて分析の共有化を図った。

(3) 自立生活体験指導～自立支援室(自活ユニット)の取り組み別棟の自立支援室を利用し、高校年生3名が年間を通して段階的なカリキュラム作成し、社会生活に向けた個別生活指導・支援を行った。

5 定員及び利用者数

定員 35名 [協定定員：千葉県措置定数：35 千葉市措置定数：0]

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働率	85%	88%	88%	88%	88%	88%

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
稼働率	88%	88%	88%	88%	88%	91%	88%

6 職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1名	1名	
事務員	1名	1名	
児童指導員(基準職員)	5名	12名	年度内 退職者 5 採用者 2
保育士(基準職員)	5名		
家庭支援専門相談員(基準職員)	1名	2名	
個別対応職員(基準職員)	1名	1名	
心理士	1名	1名	
年長児特別指導員(加算職員)	(1)名	(1)名	
小規模 GC 専任職員(加算職員)	5名	5名	
小規模 GC 非常勤職員(加算職員)	(7)名	(7)名	
調理員(4名は基準職員)	3(2)名	3(2)名	
栄養士	0名	0	
計	23(10)名	26名(10)	

7 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

月	実施行事	事務等
4月	5日花見	*毎月誕生日会
5月	3~5日GW外出	
6月	1日法人バザー	
7月		
8月	1~10日ユニット外出、21日千児協球技、14日湊灯籠流し	
9月		9/15里広報誌発行
10月		
11月	2日里感謝祭	
12月	14日法人クリスマス会、24日里クリスマス会、餅つき会	
1月	3~5日正月外出	1/15里広報誌発行
2月	2日千児協マラソン大会	
3月	14日卒園の会	

(2) 児童の生活リズム（平日）

時間	学童 内容	時間	幼児 内容
6:00	離床（休日 7:00）	6:00	離床（休日 7:00）
6:30	朝食（休日 7:30）	7:00	朝食（休日 7:30）
7:15	小学登校	8:20	小学登校
7:30	中学登校		
15:00	下校	14:50	降園
17:00	学習・自由時間	16:00	自由
18:00	夕食 入浴 自由時間	18:00	夕食 入浴
21:00	就寝（高校生 22:00）	20:00	就寝

(3) 健康管理

子どもたちの健全な成長は、日々の心身の健康にある。衛生面の徹底をはじめ疾病、感染症等の予防と共に、心のケアを重視し健康管理にあたった。

①食事支援～偏食への指導支援

楽しい食事を基本とする中、著しい偏食を抱える子どもには、アレルギー等の有無を確認しつつ、調理方法等に工夫をこらし改善に努めた。

特に学童については、本人の自覚を促しながら自助努力を促したことにより、個々に応じた改善が図られてきている。

②定期健康診断及び予防接種

健康診断については、年2回(5月・10月)実施した。また予防接種の実施含め、情報に留意し対応した。通常のインフルエンザワクチン接種は、子ども2回、職員1回とした。11月から3月まで衛生面強化として取り組み、インフルエンザの感染等は極少人数に留まった。またノロウイルス感染対策として3ヶ月間(1～3月)徹底予防に努めた。

③自己管理の支援

特に高学年の子どもたちには、衣類の調節をはじめ体調不良時の申し出、ヘルプコールのしかた、また疾病予防等の知識が身につくよう支援した。

④心のケア

子ども一人ひとりの日々の表情、態度から、ストレス、悩み等の現れを把握し、柔軟に対応しながらケアにあたった。

(4) 食育

①献立及び環境

子どもたちの希望、調理担当職員及び指導員等の意見をもとに、栄養士（指導員が資格有）による献立を基本とした。今後も栄養のバランスはもとより、家庭的なメニューを考慮していきたい。ユニットの中、より季節感、食材に応じた食器等の使用をはじめ、豊かな食生活、食卓となるよう努めた。夕食は、とりわけマナーや暮らしについて、楽しく会話をする時間が保たれることを重視した。

8 施設整備

変電設備 5,940千円 引き込み電柱 1,584千円 (計画なし)

9 資金概要

(1) 特記すべき補助金事業申請

職員の資質向上のための研修事業補助金	391千円
災害復旧費国庫補助	1844千円

(2) 運営費収支

事業活動収入(施設整備費等収入含む)は 230,496千円 (2018年度より 3,155千円増、主として事務費人件費分として増額) 事業活動支出は 186,437千円 (2018年度より 1,105千円減)

(3) 積立金

建物の建替え等に備え、建物建設積立金 10,000千円を実施。

(4) 繰入金

本部へ繰入 20,000千円

乳児院 望みの門方舟乳児園

2019（令和元）年度事業報告

1、基本方針

望みの門方舟乳児園はキリストの教えに基づき、神の似姿に創造された幼児の生命をかけがえのないものとして尊重し、その尊厳を守り育てる。好き嫌い等自分の意思を十分に伝えられない幼児を社会の一員として認識し、これを無条件に受容し最適なサービスを提供する。養育者は人権の擁護者として、業務を遂行すると共に、少子化社会進展の重大性に鑑み次世代育成支援に努めつつ運営した。

2、重点実施事項

「新しい社会的養育ビジョン」への理解と実現のために現場や関係機関と議論を重ねた上で、事業運営に反映する予定であったが、県からの具体的な推進計画の提示はなかつたため、当初予定していた事業計画と異なる運営になった部分が散逸される。

(1) 利用者の養育 (達成度 100%)

(2) 利用者の適切な保護及び育成

保護の長期化に伴い、同一の生活空間で発達状況の違いがある利用者を適切に育成することがなしづらかった。 (達成度 70%)

(3) 良き生活習慣の獲得

職員練度による問題が原因。 (達成度 70%)

(4) 家庭生活の重視

職員練度による問題が原因。 (達成度 70%)

(5) 職員の資質向上

職員が必要とする研修等に参加させることができた。 (達成度 70%)

(6) 関係機関との良好な関係構築

関係職員のみしか良好な関係構築ができていない事が課題。 (達成度 70%)

3、新規実施事項

新規実施事項として以下のことを取り組んだ。

(1) 新しい社会的養育ビジョンの理解と県推進計画に則った取り組み内容の検討

県からの具体的な提示がなかったため、独自の取り組みとして退所児のアフターフォロー等を行っている。 (達成度 50%)

(2) 働き方改革への理解と工夫による、業務のスリム化の実現

昨年度途中から職員の増配置となったため、計画的な年次有給休暇の取得が比較的容易に実施することができ、長期療養者が安心して療養出来る環境を確保することができたが、業務のスリム化（記録類の簡略化等は一部改善）を実現するほどの時間的及び人員的余裕はできていない。 (達成度 50%)

(3) 人材確保活動の具体化

職員を可能な限り派遣し確保に努めたが採用には至らず。 (達成度 50%)

4、継続実施事項

2018（平成30）年度から引き続き、下記の事項を実施した。

(1) 家庭復帰及び里親優先推進

利用者の今後について、児相担当者と綿密な連絡調整を図り、利用者情報の共有、方向性の精査を関係者で行っている。利用者の退所に際し、退所後のフォローを実施。

里親委託が妥当な利用者については、面会を通じ親権者からの理解を得ることに尽力し、里親委託への措置変更を実施することもできた。

(2) 献金・献品の申し出に、礼を尽くした対応

可能な限り迅速な対応を行っている。返礼の実施。

(3) 法人内の他施設と連携、婦人保護施設利用者の就労支援向上に寄与

他施設からの要望に関して可能な限り連携している。婦人保護施設利用者の雇用。

(4) 広報誌発行、施設情報を地域、行政機関等へ発信

前年より減少したが実施。

(5) 地域ボランティアの積極的受入

定期的なボランティアの受け入れ実施。

(6) 里親及び次世代人材の育成及び職場として社会的養護施設を宣伝

要望と要請があった場合は、可能な限り職員派遣を実施。

(7) 各種作業手順書の改訂及び整備

実施。

(8) 小規模グループケアの推進

職員増加により 1 カ所実施。

(9) 外部評価の受審及び生活環境改善

本年度は第三者評価の実施はなかったが、他施設の受審評価結果を参考にしている。

(10) 主体的業務改善と積極的相互理解のできる職場環境

主体的な業務改善が行えるよう会議などでの声掛けを継続。

(11) 利用者、職員の生活体験の共有

同一時間に、同一の生活体験を楽しみ共有することにつとめた。

(12) 個別宿泊旅行

職員と検討した結果、未実施。

(13) 作業の効率化と P C での記録の一括管理

業者との調整を継続中。

5、定員及び利用者数

定員 9名

月	4	5	6	7	8	9
稼働率	84.4	88.8	88.8	89.9	100	88.8

月	10	11	12	1	2	3	年間平均
稼働率	82.4	80	87.4	82.4	77.8	84.2	86.2

6、職員体制

() 内非常勤再掲

職種	人員		備考
	現員	計画員数	
施設長	1名	1名	
家庭支援専門相談員	1名	1名	
看護師	1名	1名	
保育士/児童指導員	6名	6名	
調理員	1名	1名	
嘱託医	1名 (1名)	1名 (1名)	

小規模グループケア担当	1名	1名	加算対象
宿直等職員	1名（1名）	2名（1名）	加算対象
個別対応職員	0名	1名	加算対象
待遇改善事業			加算対象
心理職員			加算対象
その他	1名（1名）	2名（2名）	
計	14名（3名）	16名（4名）	

7、基本的な利用者サービスの実施状況

（1）年間行事計画

月	行 事	月主題・養育者の援助	事務等予定
4	イースター (21) イチゴ狩り (25)	興味を持ち外へ出てみよう ・気温に応じた衣類の調節 ・手足の清潔 ・ポリオワクチン接種	自己評価実施 防災訓練(29)
5	子どもの日 (5) 君津中央公園 遠足 (28)	戸外遊びで経験を広げよう ・発汗後のケア ・寝具の調節 ・健康診断、害虫駆除	理事会 機関誌発行 自己評価集計 防災訓練(31)
6	バザー 富津イオン外出 (28)	雨やカタツムリを見てみよう ・室内の環境整備 ・衣類の調節（衣替え） ・食中毒予防	防災訓練(27)
7	マック外食 (4) 七夕 鴨シー遠足 (17)	水遊び、泥遊びをしよう ・発汗後のケア ・水分補給 ・虫さされ予防	防災訓練(31)
8	プール 灯篭流し(14) 納涼会 (26) 外出(未実施)	夏の遊びを楽しもう ・水分補給、休養を十分取る ・炎天下で遊ばせない ・冷房の効きすぎに注意	HP 更新 防災訓練(30)
9	お月見 (13) 遠足 個別宿泊外出 (台風の影響 ですべて中止)	体を動かそう ・室内の風通し ・夏バテの回復を図る ・寝冷えに注意	防災訓練(30)
10	スポーツ大会 (中止) 外出 (1 幼児、 7 乳児) ハロウィン (31)	スポーツ大会に参加しよう ・薄着の習慣 ・手足の清潔 ・肌荒れ予防	防災訓練(31)
11	感謝祭 (2) 君津中央公園 遠足 (15)	秋を感じよう ・肌荒れ予防 ・予防接種 ・健康診断（感染症予防対策）	機関誌発行 防災訓練(29)

1 2	クリスマス会 (14 法人、25 方舟) 冬至 (22)	クリスマスをお祝いしよう ・室温、湿度に注意 ・衣類の調節 ・湯冷めに注意する	HP 更新 防災訓練(30)
1	お正月 (元日、 7 七草がゆ、 11 鏡開き)	お正月を体験しよう ・生活リズムが崩れないように ・おせち料理を味わう	県指導監査 防災訓練(29)
2	節分 (3)	寒さに負けず元気に過ごそう ・早朝の冷え込みに注意 ・体調を考慮して外で遊ぶ	防災訓練(27)
3	ひな祭り (3) 外出 (中止)	雛祭りと共に祝おう ・気温に応じて衣類調節を行う ・園庭の環境整備 (花壇)	理事会 かずさ地区合同訓練 26) 防災訓練 (31 派遣未実施) I S O 内部監査

その他；お宮参り、お食い初め等個々の年齢にあった伝統行事の実施

(2) 日課表

07 : 00～08 : 00	起床、整容
08 : 00～09 : 00	朝食、着替え
09 : 00～10 : 00	室内遊び (ブロック、本読み、お絵かき等)
10 : 00～11 : 30	お茶、園庭遊び (砂場、ブランコ、すべり台等)
11 : 30～12 : 30	昼食、整容
12 : 30～15 : 00	お昼寝
15 : 00～16 : 00	おやつ、室内遊び
16 : 00～18 : 00	入浴
18 : 00～19 : 00	夕食、整容
19 : 00～20 : 00	就寝準備 (本読み)
20 : 00～	就寝

(3) 健康管理計画

0歳児 健康診断 (1か月・3か月・6カ月・9カ月)、各種予防接種

1歳児 ～ 健康診断 (1歳・1歳6か月)、各種予防接種

2歳児 ～ 健康診断年2回、各種予防接種

予防接種； B C G、四種混合、麻しん風疹、日本脳炎、ロタウィルス、
ヒブワクチン、肺炎球菌、インフルエンザ

8、施設整備計画

特になし

9、資金概要

事業活動収入は 103,803 千円、事業活動支出は 81,186 千円で、2018 年度より 12,794 千円增收、3,463 千円増支出となった。

増収理由及び増支出理由は小規模G C 1か所の設置と個別対応職員配置 (半期分) による加算增收と人件費分増支出となっている。また、建物の建替えに備え建物建設積立金 6,000 千円を行ったのち、追加で 2,000 千円の積立を行っている。本部繰入金 11,000 千円行った。

児童心理治療施設 望みの門木下記念学園

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

望みの門木下記念学園は、キリストの教えに基づき、家庭での養育が困難かつ心理的な治療が必要な子どもを受け入れ、一人ひとりの健全な養育に努めた。

子どもたちは県立君津特別支援学校上総湊分教室に通い、施設と教諭が日々綿密な情報交換を行うことで、適時適切な教育を受けることができた。また常勤医師の配置による精神科医療との連携や服薬治療に安心感が得られ、心理面接等の治療を進めた。

2 重点実施事項

(1) 入所促進と措置費収入の確保（達成度 80%）

子どもの安心安全を最優先とし入所を進めてきたが、不安定さを表出している児童支援が緊要の対応として迫られ、月一人前後の入所計画通りに進めることができた。その結果、暫定定員の通告を受けた。しかし様々な協議を経て、暫定24名で年度末を迎えた。大幅な減収を回避したものの、次年度も第一の課題として取り組まなければならない。

(2) 子どもの人権擁護および利益を最優先した（達成度 70%）

子ども会議を通じ、自らの意志を表明できる機会をつくりながら自己決定を促す支援を行った。生活支援、心理・医療、教育との連携を密に図り、施設生活全般を通して心理的治療の効果的な実践を目指した。

(3) 養育・自立支援の実施（達成度 70%）

個別支援計画に基づき、基本的な生活習慣の確立、年齢・発達・成長に応じた社会性を身につける支援を実施した。

(4) 支援体制と職員の連携（達成度 70%）

小規模グループの担当職員を定め個別支援を実施した。このため、職員会議、グループユニット会議、心理チーム会議、リーダー会議を通して養育支援の進捗を確認し、適時スーパーバイズを行った。

(5) 関係機関との連携（達成度 70%）

児童家庭課、児童相談所には施設状況を伝え、対象となる入所選定等の調整を行った。また、分教室教諭との日常的な連携を密にし、週1回の連絡会議を実施した。

(6) 家族・保護者等との関係（達成度 80%）

児童相談所との情報共有を基に、親子面会や帰省等の関係調整を行った。

中学3年生2名の退所先は家庭復帰が困難なケースであったため、知的障害児・者の施設およびグループホームを利用することになった。

(7) 地域との関係（達成度 70%）

湊地区の催しには積極的に参加し、灯篭流しや花火大会も楽しむことが出来た。地域清掃に職員が参加し地域との交流を行った。台風被害によって被災された近隣の方には、親子支援室を開放し、お風呂等の提供を行った。

3 新規実施事項

特になし

4 継続実施事項

(1) 子どもの人権擁護および利益を最優先

①子どもの気持ち、子どもの主体性の尊重

②自ら意志を表明できる機会をつくり、自己決定の尊重

③一人ひとりの個性を尊重し健全な成長と発達

④生活支援、心理・医療、教育との連携を密に図り、施設生活全般を通して心理的治療を行う総合環境療法の実践

(2) 養育・自立支援

①個別支援計画に基づいた適切な支援および個別の支援の充実

②基本的な生活習慣の確立

③年齢・発達・成長期に応じた社会性の習得

④豊かな食生活の確立、食育環境の充実

(3) 支援体制と職員の連携

①一人ひとりの子ども達を個別に養育支援することを基本とした上で、小規模グループケアの職員担当者を定めた個別支援

②各種会議（職員会議、グループユニット会議、心理チーム会議、リーダー会議、医療会議等）をとおして適切な養育支援および職員個々の役割の共通理解

(4) 関係機関との連携

①児童相談所等との連絡・連携

②施設内学級担任との日常的な連携を十分する。定期的な連絡会議の開催

(5) 家族・保護者等との関係

①児童相談所等との連携をもとに、親子関係の調整

②施設に配置した家庭支援専門相談員による家族支援

(6) 地域との関係

①地域の関連団体（地域子育て支援センター等）との連携により、地域の中で施設の子どもたちが見守られる体制の構築

5 定員及び利用者数

(1) 定員 30名（通所5名）受入れ学年 小学1年～中学3年（男・女）

(2) 利用者数 年間平均 15.8人（入所率52.7%）

月	在籍(人)	月	在籍(人)
4月	14人(男9・女5) : 47%	10月	16人(男10・女6) : 53%
5月	15人(男10・女5) : 50%	11月	16人(男10・女6) : 53%
6月	15人(男10・女5) : 50%	12月	16人(男10・女6) : 53%
7月	15人(男10・女5) : 50%	1月	17人(男11・女6) : 57%
8月	16人(男10・女6) : 53%	2月	17人(男11・女6) : 57%
9月	15人(男10・女5) : 50%	3月	18人(男12・女6) : 60%

6 職員体制(2020年 3.31現在)

職種	人員(暫定24名)		備考
	現員	基準人員	
施設長	1名	1名	常勤
事務員	1名	1名	常勤
児童指導員・保育士 (小規模グループケア専任)	8名 2名	8名 0名	常勤 常勤

(管理宿直職員)	2名	0名	常勤1名 非常勤1名
家庭支援専門相談員	1名	1名	常勤
個別対応職員	1名	1名	常勤
心理士	3名	3名	常勤
看護師	2名	1名	常勤(内体制強化事業1名)
医師(精神科)	1名	1名	常勤1名
調理員	3名	4名	常勤
栄養士	1名	0名	常勤(調理員兼務)
スーパーバイザー	1名	0名	非常勤
計	27名	21名	

7 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間実施行事

4月	/4 花見会 /8 始業式 /11 入学式	誕生会：毎月児童毎に実施
5月	/5 B B Q /17 分教室全校遠足 /29 分教室合同避難訓練	
6月	/1 望みの門バザー /7 連絡調整会議 /20~21 中3修学旅行(東京)	
7月	/7 七夕流しソーメン /17 分教室夏祭り /19 終業式	
8月	/5~6 キャンプ外泊(市原) /14 湿川灯篭流し・花火大会 /18 プロ野球観戦 /21 千児協球技大会 /26・29 ジャンボプール /30 B B Q	
9月	/2 始業式 /7・22 Jリーグ観戦 /20 分教室体育祭	
10月	/6 千児協オセロ大会 /17~18 中2宿泊学習(太房) /24~25 小5宿泊学習(鴨川)	
11月	/3 かずさの里感謝祭 /10 千児協文化祭 /22 分教室マラソン大会	
12月	/5 中学全南房総地区駅伝大会 /14 法人クリスマス会 /23 終業式 /24 クリスマス会 /27 餅つき	
1月	/1 初詣 /2 全体正月外出 /7 始業式 /24 県監査	
2月	/2 千児協マラソン大会 /16 木更津フットサル大会	
3月	/3 ひな祭り /13 連絡調整会議 /18 分教室卒業式 /19 巣立ちの会 /24 終業式	

(2) 児童の日課(平日)

	7:00	7:30	8:30		14:30~15:30	18:00~	19:00	21:00~22:00
起床	朝食	登校	学校		下校	学習 自由	夕食 入浴	自由 時間

(3) 健康管理

子どもたちの日々の生活は突然の心身の不調から乱れ、健全な状態に落ち着くまでに時間と根気を要するが着実な成長を感じている。衛生面の徹底から感染症等の予防に努めた。新型コロナウイルス感染症の予防対策として、施設全体に感染症の説明と外出や面会を制限することへの協力を求めた。

① 古閑医師の定期診察および必要に応じて服薬治療を行う

内服薬の管理は、施設看護師が行い、服薬の指導は生活担当職員が行った。内科・外科の診察治療は、法人嘱託医が行い、小児科の診察治療は協力病院が行った。

② 定期健康診断

上総湊分教室による学校保健法に基づいた定期健康診断を実施した。インフルエンザ予防接種は子ども達2回、職員1回実施した。

③ 食育（献立）

子ども達の希望、調理員及び指導員等の意見をもとに、栄養士による献立を基本とした。アンケート調査を実施し、栄養のバランスはもとより、家庭的なメニューを考慮した。

8 施設整備

特になし

9 資金概要

- (1) 事業活動収入：198, 189千円（2018年度：185, 448千円）
- (2) 事業活動支出：184, 377千円（2018年度：176, 645千円）
- (3) 事業活動資金収支差額：13, 811千円（2018年度：8, 803千円）
- (4) 当期資金収支差額：27, 273千円（2018年度：▲7, 635千円）
- (5) 本部より借入：30, 000千円

暫定定員の決定が年度末であったため、大幅な減収を見込み、本部から借入を行った。

児童家庭支援センター 望みの門ピーターパンの家

2019（令和元）年度事業報告

1 基本方針

児童家庭支援センター望みの門ピーターパンの家は、キリスト教の教えに基づき、地域の子どもとその家庭に関する各般の問題について、専門的な知識や技術を持って、助言その他必要な援助を行うこと、児童相談所や市町村、地域の関係機関との連絡調整等を総合的に行い、子どもとその家庭の福祉の向上を図ることを目的として事業を実施した。（達成度 80%）

2 重点実施事項

児童家庭支援センターで取り扱う相談は、子ども自身の抱える課題から、保護者や家庭の抱える課題までと幅広く、重篤な相談も多い。課題を抱えた子どもやその家庭の地域生活を『支える』ために、関係機関と連携し、横断的な支援体制を構築することが必須である。また、相談支援員と心理相談員が在籍し、親子同時にアプローチすることができる児童家庭支援センターの特色を生かした支援を行う。更に児童虐待を『ふせぐ』ために、重篤化する前に子育ての気がかりを話せる場所や人を積極的に提供し、地域全体で子育てする地域づくりの一端を担うことを目指し、以下のことを取り組んだ。

（1）相談支援の充実（達成度 90%）

個別相談支援において、相談支援員や心理士による定期的な面談や心理療法の実施を通して、相談支援の充実を図った。特に2019年度は、隣接の望みの門木下記念学園クリニックと連携し、更に充実した支援体制を構築することができた。

（2）関係機関との連携強化（達成度 90%）

児童虐待や不登校、発達障害児に対するケア等、専門的援助が必要な子どもとその家庭に対し、密に連絡を取り合い、必要に応じて面談への同席や同行の家庭訪問の実施等を行い、連携強化を図った。

（3）子育て支援機能の充実（達成度 80%）

センターで実施している親子のつどい「フリースペース」を継続し、特に保護者のおしゃべりイベントを設定するなど拡充を図った。4回目の開催となった富津市と共に「子育て講座」では、センター職員が講師を務め、イヤイヤ期への対応について講演をした。2年目となった富津市役所内の親子ひろばへの訪問相談「おしゃべり Tuesday」も継続したが、利用率が大きく低下しており、次年度は利用率回復が課題である。子ども部会の「子育て子流会」への継続参加を通して、子育て中の親子と広く交流を図り、センターの認知度向上と新たな利用者の獲得に繋げた。

3 新規実施事項

（1）富津市役所内に出張相談室の設置（達成度 95%）

役所内に出張相談室を設置することで、関係機関との連携方法が電話中心から対面中心に変わり、情報共有の質が向上した。また同じ建物内に関係機関が揃っていることで、利用者への相談も迅速化を図ることができた。また役所内で活動することで、今まで関係が少なかった様々な機関との連携が強化された。関係機関との連携数は834件（2018年度）が951件（2019年度）と14%増加した。

(2) 広報活動の充実（達成度 50%）

H P の更新や L I N E の配信等は実施できなかったが、ピーターパン通信（フリースペースの案内）の発行とパンフレットの更新を行い、今までより多くの機関に配布・設置させてもらったことで地域における認知度の向上を図った。

4 継続実施事項

(1) 地域・家庭からの相談に応ずる事業

①電話相談

平日 9 時～18 時まで、電話相談の受付。緊急時の夜間休日受付。

②来所相談

平日及び月 1 回土曜日の 9 時から 18 時まで予約制で相談・心理療法の実施。
必要に応じた親子分離面接。

③訪問相談

家庭訪問や学校、市役所等への訪問相談の実施。

④フリースペース（親子のつどい）

毎週木曜日 10 時～12 時に予約不要で来所できる親子の集いの場を提供。

(2) 市町村の求めに応ずる事業

①要保護児童対策地域協議会への参加（木更津市、君津市、富津市）

②富津市より委託を受けた 1 歳半健診での発達相談

ことばとしつけの相談員として、センター職員を派遣し、健診受診者の相談に応じた。

③富津市と共に子育て講座の実施

富津市と連携し、当センターの職員が講師として子育て講座を開催。

④富津市障害者総合支援協議会への参加・協力

富津市障害者総合支援協議会員として、センター職員を派遣し、各種研修会等の運営に協力。

⑤富津市役所内の親子ひろばへの訪問相談「おしゃべり Tuesday」の実施。

(3) 都道府県又は児童相談所からの受託による指導

児童相談所による定期的な指導が困難な児童・家庭や退所後間もない家庭に対して、児童相談所の委託により、相談援助を実施。

(4) 里親等への支援

里親及びファミリーホームからの相談に応じ等、必要な支援を行う。また、定期的に連絡会やサロンに出席し、里親支援の充実を図った。

(5) 関係機関等との連携・連絡調整

問題の早期発見・対応、児童や家庭に対するきめ細やかな支援のため、様々な分野の機関と連携を図った。

5 定員及び利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年平均
件数	280	257	215	267	217	196	264
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年総計
件数	409	266	337	239	265	224	3172

6 職員体制

職種	人 員		備考
	現員	計画員数	
管理者兼相談支援員	1名	1名	常勤(兼務)
相談支援員	1名	1名	常勤
心理相談員	1名	1名	常勤
計	3名	3名	

7 基本的な利用者サービスの実施状況

(1) 年間行事予定

4月	君津市／木更津市 要保護児童対策地域協議会(毎月) 君津児童相談所管内里親支援関係機関等連絡協議会(毎月) 千葉県児童福祉施設協議会児童家庭支援センター一部会(隔月) 全国児童家庭支援センター協議会総会 里親支援者研修会(毎月) 富津市健康づくり課 1歳半検診(毎月)
5月	富津市要保護児童対策地域協議会(隔月) 君津支部里親会総会 富津市障害者総合支援協議会全体会及び子ども部会
6月	関東ブロック児童家庭支援センター協議会総会 富津市障害者総合支援協議会こども部会 千葉県里親会総会
7月	君津児童相談所管内児童福祉施設協議会 千葉県養育里親研修
8月	富津市障害者総合支援協議会子ども部会スキルアップ講座
9月	千葉県里親委託等推進委員会
10月	富津市障害者総合支援協議会子ども部会
11月	里親委託等推進委員会 里親更新研修 千葉県児童家庭支援センター大会
12月	
1月	富津市障害者総合支援協議会子ども部会
2月	子どもの虹主催心理職員研修
3月	木更津市幼稚園・保育園巡回相談報告会

(2) 日課表 特になし

(3) 健康管理計画 特になし

8 施設整備

特になし

9 資金概要

事業活動収入は、16,827千円で(前年比1,655千円増)、事業活動支出は、16,827千円(前年比887千円)であった。収入が翌年度入金の為、本部より17,258千円借り入れる。